# FastEther PCI-TX

# 取扱説明書

PN J613-M0301-00 Rev.A 970920

# 使用および取り扱い上の注意

本製品を安全に使用するために、以下の事項を必ずお守りください。これらの事項が守られていない場合、感電、怪我、火災、故障などの原因になります。

**分解禁止**

本製品を分解しないでください。感電や故障の原因となります。

**稲妻危険**

稲妻が発生しているとき、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。

**静電気注意**

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分などに素手で触れないでください。

**取り付け・取り外し時の注意**

コンピュータの拡張スロットに本製品を取り付ける作業は、必ずご使用のコンピュータのマニュアルを参照の上、正しく行ってください。

**取り扱いは丁寧に**

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。

**設置、ケーブル配線、移動は電源を抜いて**

本製品の設置、ケーブル配線、移動などを行う場合は、必ずコンピュータの電源ケーブルを抜いて行ってください。

**次のような場所での使用や保管はしないでください**

・直射日光の当たる場所
・暖房器具の近くなどの高温になる場所
・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所
・振動の激しい場所
・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因にもなります）
・腐食性ガスの発生する場所
・スピーカー付近などの強磁界

**動作温度と湿度**

本製品は温度0〜55 ℃、湿度最大95%（ただし、結露なきこと）の範囲内でご使用下さい。

**お子様の手の届かないところに保管してください**

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

# 本書の構成

この取扱説明書は、corega FastEther PCI-TX（以下、「本製品」と表記）の使用方法について説明するものです。この取扱説明書は以下のような構成になっています。

**注：** ドライバーとは、本製品のハードウェアを直接制御しながら、OSに対してソフトウェアインターフェースを提供するプログラムであり、アダプターメーカーが提供するものです。

# 付録について

巻末に付録として以下の3章を設けています。必要に応じてお読みください。

| | | |
|---|---|---|
| **付属のハードウェア診断プログラムについて** ▶ | **A**<br>**ハードウェア診断プログラム** | 付属のハードウェア診断プログラムについて説明します。 |
| **本製品についてもっとよく知りたいときは** ▶ | **B**<br>**製品仕様** | 本製品を使用していく上で必要(参考)になっていくと思われる情報について説明します。 |
| **本製品についての問い合わせをするときは** ▶ | **S**<br>**保証・ユーザーサポート** | 本製品に関する保証・ユーザーサポートについて説明します。 |

# 表記について

本書では、各用語を以下の意味で使用しています。

| | |
|---|---|
| **AT互換機** | DOS/V搭載パーソナルコンピュータ |
| **PC-98** | NEC　PC-98シリーズパーソナルコンピュータ |
| **拡張スロット** | PCIバス仕様拡張スロット |
| **Version 950** | Windows95 Ver.4.00.950 |
| **Version A** | Windows95 Ver.4.00.950a |
| **Version B** | Windows95 Ver.4.00.950 B<br>（このバージョンは「Version B」「OSR2（= OEM Service Release 2）」「Type B」などの呼称が存在しますが、本書では"Version B"に統一します。） |

# 目次

# 1　概要

## 1.1　特長

本製品はPCI規格に適合したバスを持つコンピュータを Fast Ethernet Baseband LANシステムに接続するためのLANアダプターです。

本製品は IEEE802.3 10BASE-T規格とともに、IEEE802.3u Fast Ethernet規格に準じた100BASE-TX規格に適合しており、ご使用のネットワーク環境に応じて100M/10M Ethernetを自動的に切り替えて動作します。

(1)　32bitバス・マスタ転送方式を採用
(2)　100M/10Mbps通信を同一のポート(RJ-45コネクター）でサポート（自動切替）
(3)　100M/10Mbps通信で Full duplex（全二重）通信が可能（自動切替）
(4)　PCI BIOSによるオートコンフィグレーション（I/Oアドレス、インタラプトレベルの自動設定）
(5)　AT互換機、および NEC PC-98シリーズに対応
(6)　動作状態を表示する 5個の LED（ランプ）が付属
(7)　Auto-negotiation機能搭載

ネットワークブートROMソケットについて

本製品はネットワークブートROM実装用ソケットを持っていますが、現時点ではネットワークブートROM機能には対応しておりませんのでご了承ください。

なお、本機能に関する最新情報は弊社サポートセンターまでお問い合わせください。サポートセンターへの連絡方法は本書巻末「付録S　保証・ユーザーサポート」をご覧ください。

# 1.2　使用環境

## 1.2.1　対応コンピュータ機種

本製品はPCI規格に適合したバスを持つ以下のコンピュータ機種に対応しています。

■PC/AT互換機（DOS/V機）
■NEC PC-98シリーズ

## 1.2.2　添付ドライバー

本製品には以下のドライバーが添付されています。

■Windows95 NDISドライバー
■Windows NT（Ver.3.51以上） NDISドライバー

# 1.3　各部の名称

## 1.3.1　外観図

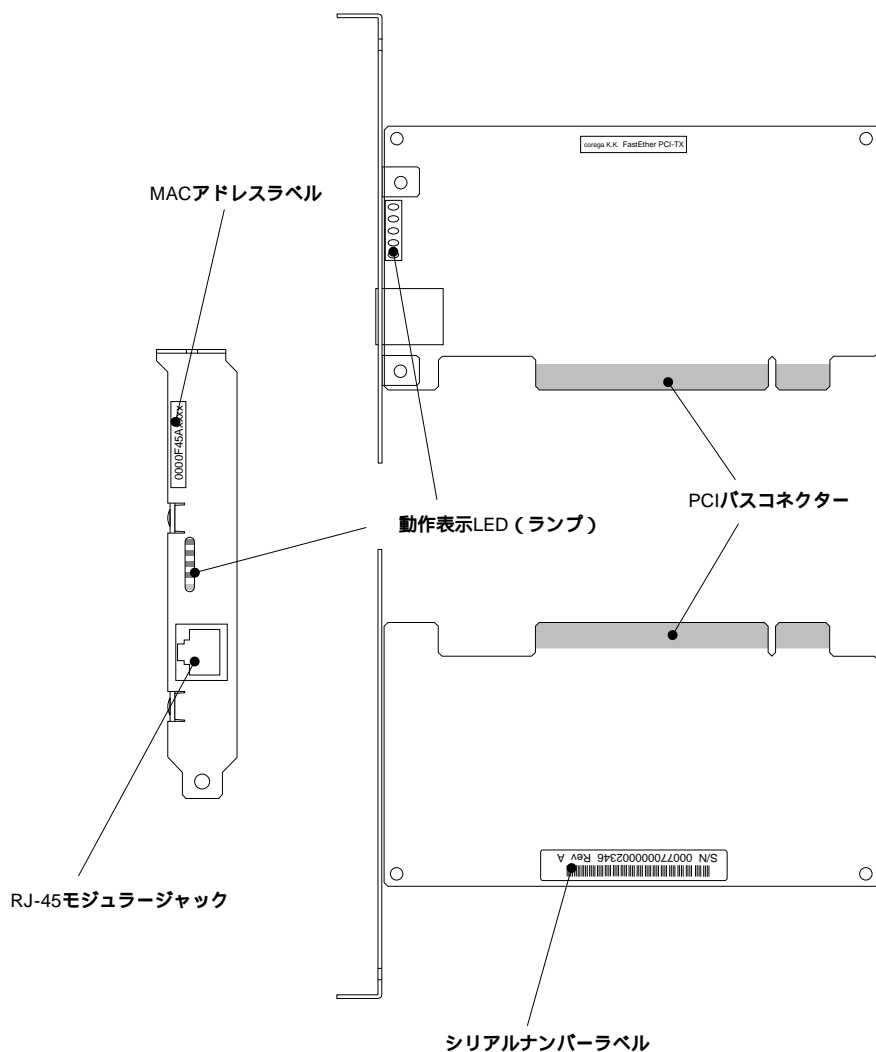



図 1.1　外観図

### 1.3.2　各部の説明

①シリアルナンバーラベル

製品のシリアルナンバー（製造番号）とリビジョンコードが記載されています。これらはユーザーサポートへの問い合わせの際に必要となります。

②動作表示 LED（ランプ）

動作状態を 5 つの LED（ランプ）で表示します。詳細は次の 1.3.3項をご覧ください。

③ MAC アドレスラベル

各製品に固有のMACアドレスが記載されています。MACアドレスについては「B.3　MAC アドレス」をご覧ください。

④ RJ-45モジュラージャック

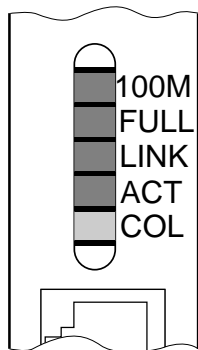
ネットワークケーブルを接続するコネクターです。使用するネットワークケーブルについては「2.4　ネットワークケーブルについて」をご覧ください。

⑤ PCI バスコネクター

本製品とコンピュータのインターフェースとなるコネクターです。この部分は素手で触らないようにしてください。

### 1.3.3　動作表示LEDについて

本製品には動作状態を表示する5個のLED（ランプ）が装備されています。各LEDの名称と働きは以下の通りです。

（上から）

**① 100M（緑）**

100Mbpsで通信が行われているときに点灯します。

**② FULL（緑）**

Full duplexモード（全二重通信）のときに点灯します。

**③ LINK（緑）**

本製品とハブの間でリンクが成立すると点灯します。

**④ ACT（緑）**

本製品がパケットを送受信すると点灯します。

**⑤ COL（黄）**

パケットの衝突（collision）を検出すると点灯します。

Full duplex モードの場合はコリジョン検出は行われないので（1.5.1 項参照）この LED は意味を持ちません（点灯はありえません）。

# 1.4　100BASE-TXについて

## 1.4.1　100M /10M Ethernet

従来のEthernetの標準はデータ伝送能力（ネットワーク全体の帯域幅）が10Mbps (=1.25M bytes/secのものであり、これを特に**10M Ethernet**と呼びます。これに対し、100Mbpsというデータ伝送能力を持つより高速なEthernet規格を総称して、**100M Ethernet**と呼びます†1。100M Ethernetに対応したネットワークでは100Mbpsという高速なデータ転送によりネットワークの帯域を拡大し、画像や音声などの大量のデータ通信や、多数のクライアントがアクセスするサーバーに対してスループット(単位時間あたりの転送速度)を向上させることが可能です。

†1 この呼称（10M/100M Ethernet）は規格そのものを意味する他に、規格に対応したネットワークを指す場合もあります。

100M Ethernetには **100BASE-T (IEEE802.3u)** や **100VG-AnyLAN (IEEE802.12)**†2 などがあり、このうち、本製品は 100BASE-Tに対応しています。
IEEE802委員会により1992年から行われている100M Ethernetの規格化は、100BASE-Tについては IEEE802.3u として、100VG-AnyLANについてはIEEE802.12としてほぼ標準化が完了しています。

†2 100VG-AnyLAN と 100BASE-T との共存はできません。

## 1.4.2　100BASE-T

IEEE802.3uで標準化された**100BASE-T**は、**10BASE-T**†3 (10Mbpsの100Mbps版であり(**Fast Ethernet**とも呼ばれています)、従来の10BASE-T規格を継承した仕様になっています。100BASE-Tは、現在のネットワーク管理ツールやプロトコルに関する知識をそのまま適用することが可能であり、また10BASE-Tとの混在も可能なため、あらゆるネットワーク環境に柔軟に対応することができます。

†3 Ethernetのデータ伝送メディアとして使用されるネットワークケーブルの規格、もしくはケーブル自体を指します。10BASE-T を使用したネットワークはハブを中心としたスター構成となります。

また、100BASE-Tにはオプションとして**Full duplex**（全二重）通信と**Auto-negotiation**機能が用意されており、本製品はどちらの機能も装備しています。詳細は「1.5　Full duplexとAuto-negotiation機能」をご覧ください。

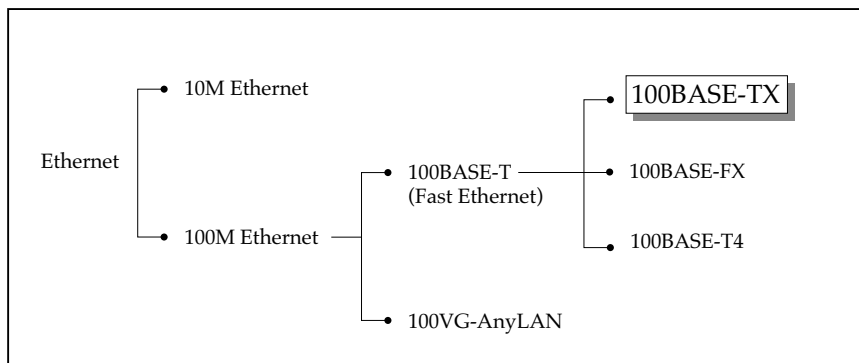
## 1.4.3　100BASE-TX

IEEE802.3uで標準化された**100BASE-T**は、**100BASE-TX・100BASE-FX・100BASE-T4**の3つの規格があり、それぞれ使用するケーブルの種類が異なります。

このうち、本製品が対応している規格は**100BASE-TX**であり、これは**カテゴリー5**の**UTPケーブル（RJ-45コネクター）**を使用します[†4]。**100BASE-TX**の特長として、**IEEE802.3 (10BASE-T)** との互換性の維持を最大の目的として開発されていることが挙げられ、従来の10M Ethernetの環境から100M Ethernetへの移行時期にも柔軟に対応できます。また、100BASE-TXは1つのRJ-45コネクターで10BASE-Tと100BASE-TXを自動で認識し、10Mbpsと100Mbpsが混在するネットワークにおいて、速度切り替えの手間を要しません。

† 4 IEEEでの規格上はネットワークケーブルはSTP（Shielded Twisted Pair）ケーブルとUTP（Unshielded Twisted Pair）ケーブルの両方が規定されていますが、本書では主流であるUTPケーブルについて記述しています。

また、100BASE-TXは従来の10BASE-Tと同様、10Mbpsでの通信もサポートしており、現在10M Ethernetで構築・運用されているネットワーク環境にそのまま接続することができます。

### （参考）100M Ethernet

### （参考）100BASE-Tの3つの規格と使用ケーブル

■100BASE-TX（本製品で使用）…カテゴリー5のUTPケーブル
■100BASE-FX…2芯マルチモードの光ファイバーケーブル
■100BASE-T4…カテゴリー3の4対8線のUTPケーブル

# 1.5　Full duplexとAuto-negotiation機能

## 1.5.1　Full duplex

本製品は**Full duplex**機能を備えています。**Full duplex**とは、**100BASE-T**規格においてオプションとして規定されている機能の一つで、コリジョン検出の機能とループバック機能を省略することで**200Mbps（最大）**の伝送速度を実現します。Full duplexを実現するには、①本製品を装着した2台のコンピュータをクロスケーブルで接続、または②スイッチングハブを使用、の2つの方法があります。

## 1.5.2　使用できる通信モード

本製品では、以下の4種類の通信モードを使用できます。

1）100Mbps Full duplex（100Mbps全二重通信）
2）100Mbps Half duplex（100Mbps半二重通信）
3）10Mbps Full duplex（10Mbps全二重通信）
4）10Mbps Half duplex（10Mbps半二重通信）

### 1.5.3　Auto-negotiation機能とは

本製品はAuto-negotiation機能を搭載しています。Auto-negotiation機能とは、通信に先立って対向装置がサポートしている通信速度を判断し、最適な通信速度を選択する機能です。ただし、対向装置も同様にAuto-negotiation機能を持っていることが必要です。対向装置が上記（1.5.2項）の4つの通信モードのうち2つ以上のモードをサポートし、（かつAuto-negotiation機能を持つ場合は）通信速度が速いものが（1→2→3→4の順で）選択されます。例えば、2と4をサポートしている場合は、2を選択して通信を行います。
対向装置がAuto-negotiation機能を持たない場合に本製品のAuto-negotiation機能を有効にしたままで通信を行うと、通信速度（100Mbps/10Mbps）の選択のみが自動的に行われますが、duplexモード（Full/Half duplexの選択）は常にHalf duplexが選択されます。例えば、対向機器が100M Full duplexをサポートしている場合は100M Half duplexで通信を行ってしまいます。対向装置がAuto-negotiation機能を持たない場合には手動で最適な通信モードに設定して下さい（設定はドライバーのインストール時またはインストール後に行います）。

対向機器が半二重通信にのみ対応している（シェアードハブなど）場合、本製品を全二重通信固定に設定することは障害の原因となりますので避けてください。この場合は対向機器と同様に半二重通信の固定にするか、あるいはAuto-negotiation機能を有効にしてご使用ください。

# 2　ハードウェアの設定

以下に示す手順を参考に、本製品をコンピュータの拡張スロットに取り付けて下さい。コンピュータ本体カバーの取り外しやアダプター取り付けの詳細は、ご使用になるコンピュータのマニュアルをご覧ください。

※　Windows95でご使用の場合は、本製品をコンピュータに取り付ける前にドライバーをインストールしてください。手順については「3　Windows95上にインストール」をご覧ください。

## 2.1　コンピュータへの取り付け

（1）　コンピュータ上で動作しているソフトウェアを全て終了し、コンピュータの電源をオフにしてください。

（2）　安全のために電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

コンピュータの拡張スロットに本製品を実装する作業は、必ずコンピュータの電源を切って行って下さい。電源を投入したままこの作業を行うと、コンピュータや本製品の故障の原因になることがあります。

（3）　コンピュータの本体カバーを外してください。

（4）　スロットカバーを固定しているねじを外し、スロットカバーを外してください。

（5）　本製品を拡張スロットにしっかり奥まで挿し込んでください。

（6）　(4)で外したねじを使用して、本製品を固定してください。このねじは必ず取り付けてください。

ネットワーク接続に必要なハードウェアリソース設定(DMA、IRQ、I/Oアドレスなど)は、本製品をコンピュータの拡張スロットに取り付けただけで自動的に行われます†。

†　本製品とPlug&Playに対応していないISA仕様の他の拡張アダプター(ボード)を併用する場合、ISA Configuration Utility (ICU)を使用して、ISA仕様の拡張アダプターのための設定をコンピュータに施しておく必要があります。ISA Configuration Utilityに関しては、ご使用のコンピュータのマニュアルをご覧ください。

†　本製品を使用する前に、予めリソース値に空きがあることを確認しておいてください。

## 2.2　コンピュータからの取り外し

（1）　本製品の組み込み手順(1)〜(3)を実行し、コンピュータ本体の天板を外します。

（2）　本製品を固定しているねじを外します。

（3）　本製品をゆっくり引き抜きます。引き抜く時は左右に振らずに真っすぐ引き抜いてください。

## 2.3　ネットワークに接続する

次に、ネットワークに接続します。
ここでは例として、本製品をハブと接続する場合について説明します。

（1）　ご使用の環境にあったネットワークケーブル（2.4項参照）を用意します。

（2）　ネットワークケーブルのモジュラープラグを本製品のモジュラージャックに、カチッと音がするまで差し込んでください。
※モジュラープラグを挿入または外すときにはプラグの爪を親指で
　押さえながら行います。

（3）　ネットワークケーブルのもう一方のモジュラープラグをハブのモジュラージャック（PORTと表記されている場合もあります）に差し込んで下さい。

## 2.4　ネットワークケーブルについて

本製品とネットワークを接続するネットワークケーブル（UTPケーブル）は以下のものをご使用下さい。ネットワークケーブルのご購入につきましては、弊社までお問い合わせ下さい。

■100BASE-TX用のUTPケーブル
必ずカテゴリー5のケーブルをご使用下さい。

■10BASE-T用のUTPケーブル
カテゴリー3,4,5のケーブルを使用することができます。

不適当なカテゴリー番号のもの（数字の小さいもの）や品質の悪いケーブルを使用すると、「リンクできない」「通信エラーが発生する」「通信できない」などの障害が発生します。なお、UTPケーブルは外見では区別できないため、いろいろなカテゴリーケーブルを混在させて使用している場合には特にご注意ください。

## 2.5　リンクの確認

最後に、ハブとコンピュータの両方に電源を投入し、本製品の**LINK** LEDとハブの**LINK OK** LEDの両方が点灯することを確認します。点灯が確認できれば、ネットワークへの接続は正常に完了しています。

どちらか一方しか点灯していない、または両方が消灯している場合は本製品とハブは正しくリンクしていません。その場合はネットワークケーブルの断線やケーブルの配線ミス、使用ケーブルの誤りなどが考えられますので、次の2.6項の2番を参照の上、処置を施してください。

## 2.6　通信ができない場合

本製品をご使用になって通信ができない場合は次のような原因が考えられます。

**1.使用するプロトコル、クライアントなどの設定が適切でありません。**
「コントロールパネル」の「ネットワーク」で正しく設定してください。

**2.ケーブルがきちんと接続されていません。**
ご使用のネットワークケーブルがしっかり接続されていない、または断線している、あるいは適切なものを使用していない、などの原因が考えられます。ケーブル類の接続をし直す、ケーブル類を交換してみる、ハブのポートを入れ替えてみるなどの処置を行ってみてください。

ハブと本製品が物理的に正しく接続されていれば、ハブと本製品のLINK LEDが両方とも点灯します。また、ネットワークのパケットを受信したとき、本製品のACT LEDが点灯します。

（注）LINK LEDを持たないハブもあります。また、LINK LEDが別の名前で呼ばれていることがあります。

# 3　Windows95上にインストール

## 3.1　Windows95でのインストール手順

本製品用ドライバーをインストールする手順は以下の通りです。具体的な手順は3.3項以降をご覧ください。

1. 本製品付属のドライバーディスクからドライバーをインストールします。インストールには専用のインストーラ（**inst95.bat**）を使用します。

**[重要]**
必ず本製品をコンピュータに取り付ける前にインストールしてください。

2. インストール終了後、コンピュータの電源を切断し、本製品をコンピュータの拡張スロットへ取り付けます。（「2　ハードウェアの設定」参照）
3. コンピュータに電源を再び投入し、Windows95に本製品を認識させます。再起動後、必要に応じてネットワークに関する設定を行います。

# 3.2　Windows95のバージョンの確認

まず、ご使用のWindows95のバージョンを確認してください。バージョンによって表示される画面や注意事項などが異なる場合があります。

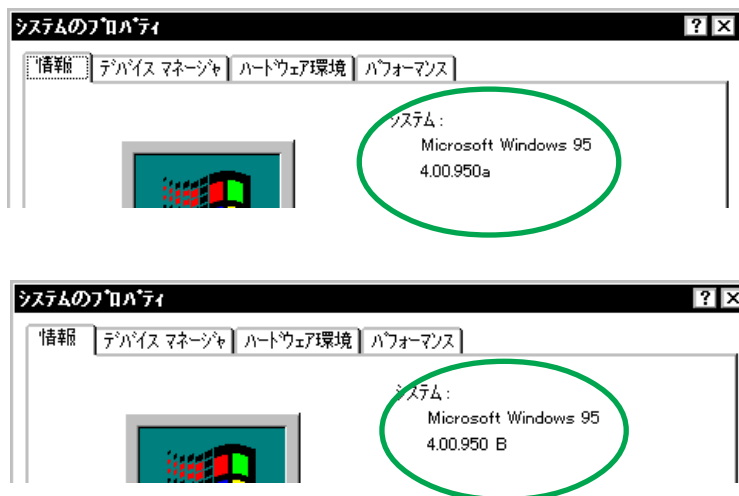
## ■バージョン表記

本書ではWindows95のバージョンを以下のように表記します。

| | |
|---|---|
| **Version 950** | Windows95 Ver.4.00.950 |
| **Version A** | Windows95 Ver.4.00.950a |
| **Version B**† | Windows95 Ver.4.00.950 B |

† このバージョンには Version B・OSR2（= OEM Service Release 2）・Type Bなどの呼称が存在しますが、本書では "Version B" に統一します。

## ■バージョンの見方

Windows95のバージョンは「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」→「情報」と進み、「システム：」の番号で確認します。
"**4.00.950**" であれば **Version 950**、"**4.00.950a**" であれば **Version A**、また" **4.00.950 B**" の場合は **Version B（OSR2）** です。

**画面1　Windows95のバージョン表示（上：Version A、下：Version B）**

# 3.3　ドライバーのインストール

## 3.3.1　準備

インストールを始める前に、以下のものをご用意ください。

1. corega FastEther PCI-TX本体・ネットワークケーブル・ハブ等
2. コンピュータ（Windows95インストール済み）
3. Windows95のマスターディスク（CD-ROM またはフロッピーディスク）

   プリインストール版Windows95をご使用の場合は必要なファイルが予めハードディスクにコピーされていますのでマスターディスクは必要ありません。ただし、一度OSを削除し、再インストールしている場合は必要です。

**[重要]**ご使用のコンピュータのOSがプリインストール版であり、バックアップCD-ROMをお持ちでない場合は、安全のために必ずフロッピーディスクにバックアップを取った後でドライバーのインストールを開始してください。

4. corega FastEther PCI-TXドライバーディスク（本製品付属）

ドライバーは常に最新のものをご使用ください。最新のドライバーはコレガ社のホームページより入手できます。（http://www.corega.co.jp）

## 3.3.2　ご注意

この段階では、本製品をコンピュータの拡張スロットに取り付けないでください。

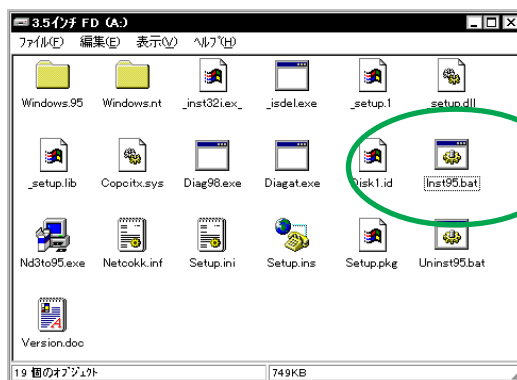
ここに挙げた手順は一例です。お客様の環境によって手順が若干異なることがあります。また、本書に掲載した画面はAT互換機のものです。PC-98シリーズの場合はディスクドライブ名などが異なります。

### 3.3.3　インストーラによるドライバーの組み込み

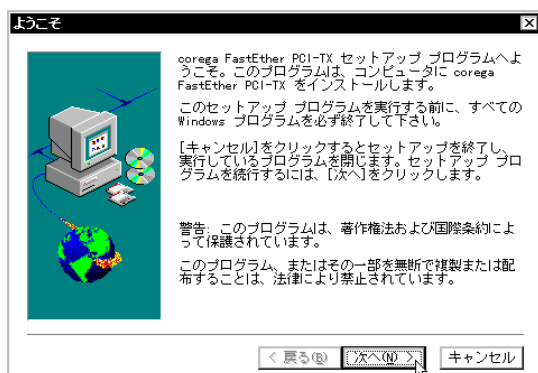
1.　コンピュータの電源を入れ、Windows95を起動します。

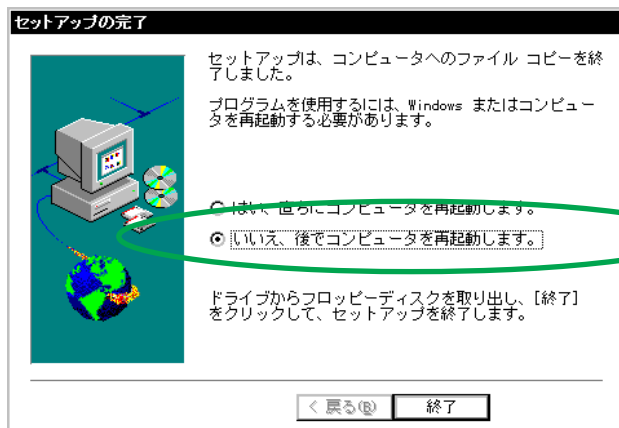
2.　ドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、インストーラ "**inst95.bat**" を起動します。以下の方法のいずれかを実行して起動してください。

■「スタート」→「ファイル名を指定して実行(R)」
　と進み、"**inst95.bat**" を指定する。

■「マイコンピュータ」→「3.5インチFD」と進み、
　"**inst95.bat**" アイコン（画面2参照）をダブルクリックする。

**画面2　inst95.bat アイコン**

通常、Windows95はDEC21x40イーサネットコントローラチップを搭載したLANアダプター（本製品を含む）に対して、Windows95の供給メディア（フロッピーディスクまたはCD-ROM）に標準で搭載されている汎用のドライバーを自動的に組み込みます。本製品はこの汎用ドライバーではなく、専用のドライバーでのみ動作する仕様となっているため、インストーラはWindows95に予め「専用ドライバーを使用する」ことを教え、誤って汎用ドライバーを組み込むことを防止しています。

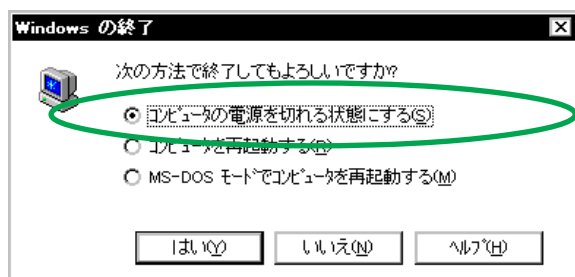
3.　インストーラが起動します。内容をよく読んだ上で、「次へ」をクリックしてください。

**画面3**

4.　ドライバーおよび関連ファイルがハードディスクにコピーされます。終了すると下のダイアログが表示されます。コンピュータを再起動するかの問いに対し、「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」を選択し、「終了」をクリックしてください。

**画面4**

5.　「終了」をクリックし、インストーラを終了します。

**画面 5**

注　MS-DOS プロンプトウィンドウが立ち上がったままである場合は、ウィンドウの角の終了（×）ボタンをクリックしてウィンドウを閉じてください。

6.　一旦コンピュータの電源（「スタート」→「Windows の終了」）を切断し、本製品を拡張スロットに取り付けます。

**画面 6**

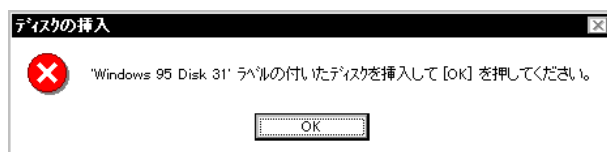
7.　本書「2　ハードウェアの設定」2.1 項および 2.3 項にしたがい、ハードウェアの設定をします。

8.　ハードウェアの設定が終了したら、引き続き、「3.3.4　Windows95ファイルのコピー（再起動後）」へお進みください。

### 3.3.4　Windows95ファイルのコピー（再起動後）

1.　ハードウェアの設定の終了後、再びコンピュータに電源を投入します。Windows95はPlug＆Play機能により、本製品を「PCI Ethernet Controller」および「corega FastEther PCI-TX Ethernet Adapter」として検出します†。

† ご使用のコンピュータに初めてLANアダプターをインストールする場合は、ここでコンピュータをネットワーク上で識別するための情報（コンピュータ名、ワークグループ名、コンピュータの説明）の入力ダイアログが表示されますので、システム管理者にご確認の上、設定を行います。なお、このダイアログの内容をインストール終了後に変更するには、「ネットワーク」（コントロールパネル）を起動し、「ユーザー情報」タブを選択してください。

2.　必要なWindows95ファイルのコピーが始まります。Windows95のマスターディスクが要求されますので（画面７参照）、ご使用の形態に応じてパスを入力します。

**画面７　マスターディスクの要求**

**■プリインストール版Windows95の場合**

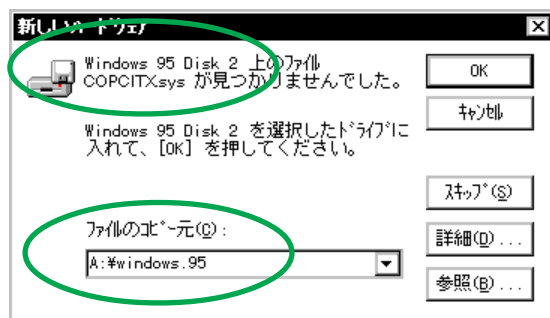
「ファイルのコピー元（C）:」で「C:**\windows\options\cabs**」を入力して下さい。（プリインストールされているドライブを C: と仮定します。）

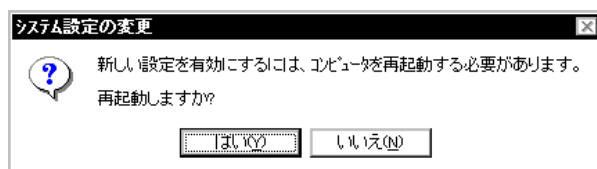
**■CD-ROMの場合**

「ファイルのコピー元（C）:」で「D:**\win95**」を入力して下さい。(ここでは、CD-ROMドライブをD:と仮定します。)

**■フロッピーディスクの場合**

指示された番号のディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、「ファイルのコピー元（C）：」で「A:****」を入力してください。（ここではフロッピーディスクドライブをA:と仮定します。）

3. **（重要）**場合によっては下のようなダイアログが表示されることがあります。このとき、ファイル "**COPCITX.sys**" は Windows95のマスターディスク上のファイルとして説明されていますが、実際にはドライバーディスクの中に収められています。ドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、パス「A:**\windows.95**」（または「A:****」）を入力してください。（ここでは、フロッピーディスクドライブを A:と仮定します。）

**画面 8　COPCITX.sys の要求（例）**

4. 「システム設定の変更」が表示されます[†]。「再起動しますか？」という問いに対して「はい（Y）」をクリックし、（フロッピーディスクを取り出し、）コンピュータを再起動します。

**画面 9　システム設定の変更**

† ご使用のコンピュータに既に他の LAN アダプターのドライバー（ダイアルアップアダプタ等）がインストールされている場合、このダイアログは表示されません。この場合も必ず再起動して設定内容を有効化してください。

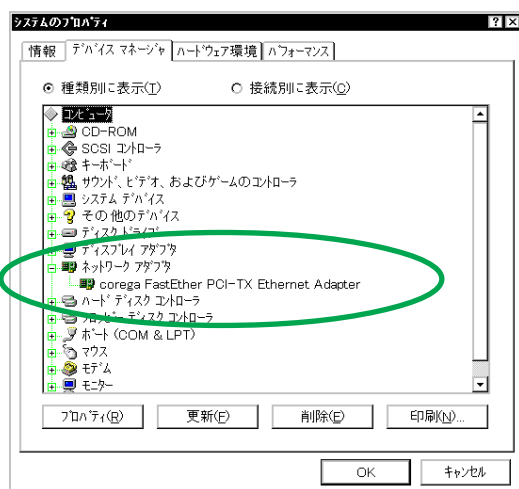
5. 以上でドライバーのインストールは終了です。引き続き、「3.4　ドライバーの確認と設定」にお進みください。

# 3.4　ドライバーの確認と設定

再起動したら、始めにドライバーのインストールが正常に行われていることを確認し、さらに必要な設定を行います。

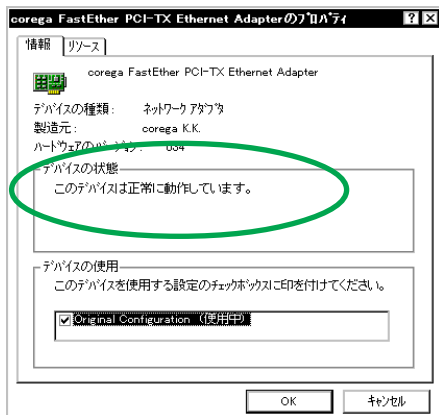
## 3.4.1　デバイスマネージャによる確認

### 3.4.1.1　インストールの確認

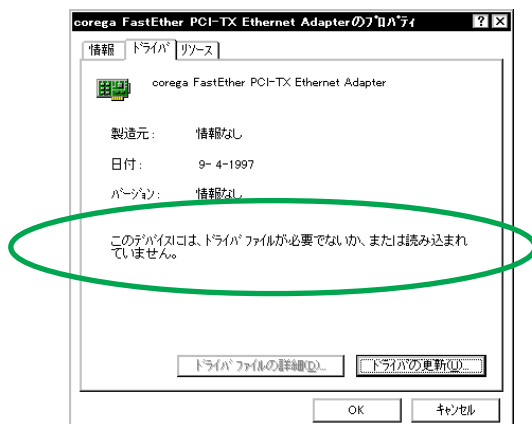
「システム」（コントロールパネル）をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」を表示します。インストールが正常に行われていれば「ネットワークアダプタ」の下に「corega FastEther PCI-TX Ethernet Adapter」が表示されます。

**画面 10　デバイスマネージャ**

† 「OK」は「閉じる」と表記されている場合もあります。

これらのアイコンに「×」「？」「！」などのマークがついていたり、またはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく「不明なデバイス」や「その他のデバイス」にある場合は、インストールに失敗しています。詳しくは「3.6　トラブルシューティング」をご覧ください。

次に、デバイスマネージャで「corega FastEther PCI-TX Ethernet Adapter」（画面10参照）を選択し、「プロパティ」→「情報」と進みます。「デバイスの状態」で「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることをご確認ください。

**画面11　デバイスの状態（Version 950/A）**

**画面12　デバイスの状態（Version B）**

Windows95 Version Bをご使用の場合（画面12）は「ドライバ」タブが用意されています。
この「ドライバ」を表示した場合、下のように「このデバイスには、ドライバファイルは必要でないか、または組み込まれていません。」という記述がありますが、これは本製品の仕様によるもので、ご使用には支障ありません。

**画面 13 「ドライバ」タブ**

## 3.4.1.2 リソースの確認

本製品が使用するI/Oベースアドレス、インタラプト（IRQ）などのリソースは、Windows95によって自動的に設定されます。これらの値を確認するには「デバイスマネージャ」→「ネットワークアダプタ」→「corega FastEther PCI-TX Ethernet Adapter」→「プロパティ」→「リソース」と進んでください。

**画面 14 リソースの確認**

## 3.4.2　ネットワークの一般設定

### 3.4.2.1　ネットワーク環境の設定

次に、「ネットワーク」（コントロールパネル）を起動し、使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行います。設定についての詳細はネットワーク管理者にご確認ください。

画面 15

### 3.4.2.2　詳細設定

次に、「詳細設定」タブでネットワークケーブルおよび通信モードの設定を行います。「値(V)」リストからご使用の環境に合ったものを選択します。（詳細はシステム管理者にご確認ください。）

**画面 16　詳細設定**

各項目の意味は以下の通りです。

**AutoSense（デフォルト）**

Auto-negotiationを有効（Enabled）に設定します。この項目を選択した場合、対向機器の仕様によって動作は以下のように変わります。（Auto-negotiationについての詳細は「1.5　Full duplexとAuto-negotiation機能」をご覧ください。）

**対向装置がAuto-negotiationをサポートしている場合**

可能な最高の速度（10/100 Mbps）およびモード（Full/Half duplex）となります。

**対向装置がAuto-negotiationをサポートしていない場合**

対向装置がAuto-negotiationをサポートしていない場合またはAuto-negotiationを無効に設定している場合にこの「AutoSense」を選択すると、ネットワークメディアは通信速度（100/10 Mbpsの別）のみを自動的に検出し、検出された速度のHalf duplexモードとなります。したがって、対向機器が 100MbpsのFull duplexモードをサポートしていてもAuto-negotiation機能をサポートしていない場合に最高速度（100Mbps Full duplex）を得るためには、後述の「100BaseTx Full_Duplex」を選択する必要がありますのでご注意ください。

**100BaseTx**

100MbpsのHalf duplex（半二重）モードに設定します。

**100BaseTx Full_Duplex**

100MbpsのFull duplex（全二重）モードに設定します。

**10BaseT (Twisted_Pair)**

10MbpsのHalf duplex（半二重）に設定します。

**10BaseT Full_Duplex**

10MbpsのFull duplex（全二重）に設定します。

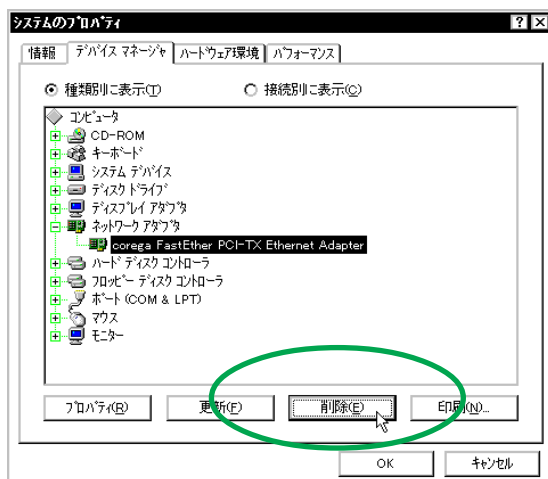
# 3.5　登録内容の削除と再インストール

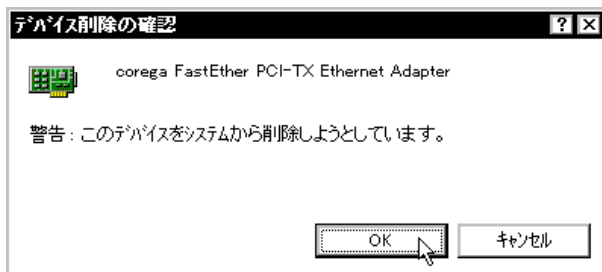
ドライバーのインストールを一旦完了するとその内容は保存され、次回からはコンピュータを起動するだけで本製品およびネットワークを使用できます。

ドライバーのバージョンアップの場合など、ドライバーを再インストールしたい場合は、この項の手順にしたがって一旦既存のドライバーをアンインストールした後に再インストールを行います。（「3.6　トラブルシューティング」もご覧ください。）

## 3.5.1　ドライバーのアンインストール

ドライバーをアンインストールする手順は以下の通りです。

（1）　「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進み、「ネットワークアダプタ」の下から項目「corega FastEther PCI-TX Ethernet Adapter」を選択し、「削除（E）」ボタンをクリックしてください。

**画面 17　ドライバーの削除**

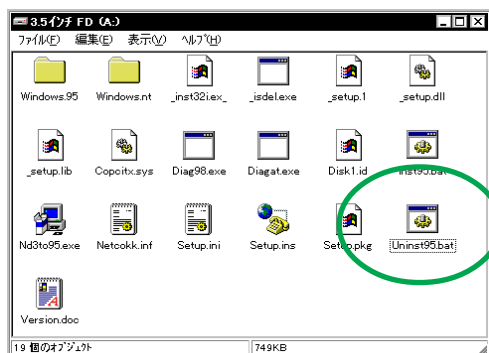
（2）　下のダイアログが表示されたら、「OK」をクリックします。

**画面 18　デバイス削除の確認**

（3）　「ネットワークアダプタ」のアイコンが消えていることをご確認ください。

**画面 19　削除後のデバイスマネージャ**

（4）　「システムのプロパティ」の「閉じる」ボタンをクリックしてください。ここで、「Windows95を再起動するか」を尋ねられますが、「再起動しない」を選択し、そのまま手順(5)にお進みください。

（5） 続いて、本製品専用のアンインストーラを起動します。ドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、専用のアンインストーラ"**uninst95.bat**"を起動します。以下の方法のいずれかを実行して起動してください。

■「スタート」→「ファイル名を指定して実行(R)」と進み、"**uninst95.bat**"を指定する。
■「マイコンピュータ」→「3.5インチFD」と進み、"**uninst95.bat**"アイコン（画面20参照）をダブルクリックする。

**画面20　uninst95.bat アイコン**

（5） アンインストーラが終了したら、MS-DOSプロンプトウィンドウを閉じます。以上でアンインストールの手続きは終了ですので、コンピュータの電源を切断し、本製品を拡張スロットから取り外してください†。（詳細は「2　ハードウェアの設定」をご覧ください。）

† 本製品をスロットに挿入したままだと、次にコンピュータに電源を投入したときにDECチップ用汎用ドライバーがWindows95よりインストールされますので、必ずスロットから外しておいてください。

## 3.5.2　再インストール

再び本製品のドライバーをインストールする場合の手順は、初めてドライバーをインストールする場合と全く同じです。「3.3　ドライバーのインストール」に戻って再びインストールを実行してください。

# 3.6　トラブルシューティング

この項ではドライバーのインストールに伴うトラブルの代表的な例と、その対処法について説明します。

## 3.6.1　デバイスマネージャでのエラー

「3.4.1.1　インストールの確認」を行った際に「corega FastEther PCI-TX Ethernet Adapter」アイコンの表示が以下のようになっている場合は、ドライバーのインストールに失敗していますので、ドライバーを一旦削除し、再びインストールします。

■「ネットワークアダプタ」の項目がない†1
■「その他のデバイス」「不明なデバイス」の下にアイコンが表示されている†1
■アイコンに「!」「？」「×」マークがある†2

**画面 21　「!」マークがついている状態**

†1 この場合、以下のような操作を行ったことが考えられます。
■ドライバーのインストールの作業中に行われる netapi.dll などの Windows95 関連のファイルのインストールをキャンセルしてしまった。
■画面 8（COPCITX.sys の要求）において「キャンセル」をクリックした。

†2「？」マークがアイコンについている場合、本製品付属のインストーラを実行する前に本製品を拡張スロットに装着し、Windows95 を起動した可能性があります。（この場合、Windows95 は DEC21x40イーサネットコントローラ用の汎用ドライバーを組み込んでいます。この汎用ドライバーでは本製品は動作しません。）
Windows95 VersionB 使用時で「×」マークがついている場合は、後述の「3.6.3　使用許可の切り替え」もご覧ください。

### 3.6.2　再インストールの手順

（1）　不正にインストールされた「corega FastEther PCI-TX Ethernet Adapter」アイコンを選択し、「削除（E）」ボタンをクリックしてください。

（2）　「デバイス削除の確認」ダイアログが表示されます。「全ての設定から削除（A）」を選択し、「OK」をクリックしてください。

（3）　「ネットワークアダプタ」のアイコンが消えていることをご確認ください。

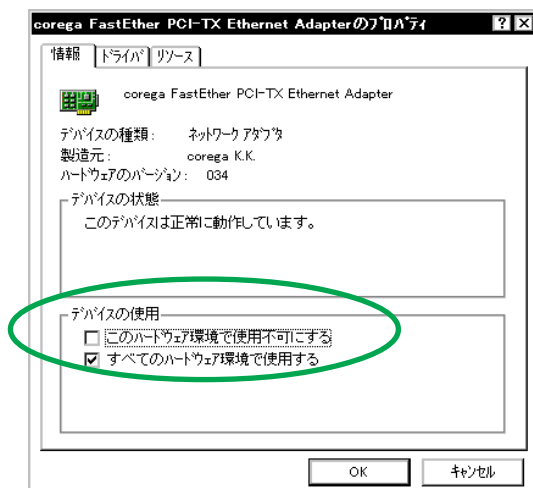
（4）　「システムのプロパティ」の「閉じる」ボタンをクリックしてください。

（5）　コンピュータを再起動します。以後、「3.3.4　Windows95ファイルのコピー（再起動後）」以降の手順を実行してください。

### 3.6.3　使用許可の切り替え（Version Bのみ）

Windows95 Version Bの場合、アイコンに「×」マークがある場合は「デバイスの使用不可」に設定していることも考えられます。この場合は以下の手順にしたがって使用許可の状態を切り替えて下さい。

（1）　「corega FastEther PCI-TX Ethernet Adapter」を選択（反転表示）し、「プロパティ」をクリックし、「情報」タブを表示します。

（2）　「このハードウェア環境で使用不可にする」のチェックを外してください。

**画面22　デバイスの使用許可の切り替え**

### 3.6.4　リソース値重複の回避

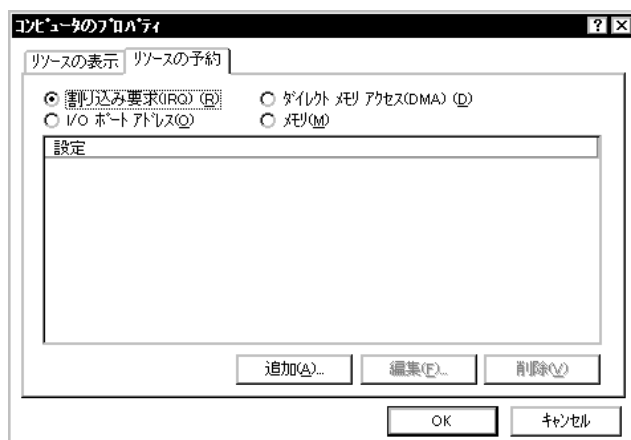
「3.5　登録内容の削除と再インストール」の手順にしたがってドライバーの削除および再インストール作業を行っても、なおアイコンに「?」、「!」、「×」マークが付いている場合は、他の拡張アダプターとリソースの値が重複している可能性があります。

特に、Plug & Playに対応していない他の拡張アダプターを本製品とともに使用している場合は、その拡張アダプターが使用するリソース値をWindows95に予め登録（「予約」と呼びます）し、その値が他のPlug & Play対応デバイス（本製品を含む）によって使用されないように設定しておくと、値の重複を回避できます。

**リソース値を予約する手順**

(1)　Plug & Play非対応の拡張アダプターが使用するリソースの値（インタラプト（IRQ）、I/Oベースアドレス、メモリ、ダイレクトメモリアクセス（DMA））を調べておきます。詳細は、その拡張アダプターのマニュアルをご覧になるか、またはメーカーにお問い合わせください。

(2)　「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」→「コンピュータ」→「コンピュータのプロパティ」パネル→「リソースの予約」と進みます。

(3)　該当する項目を選択し、「追加(A)..」をクリックします。画面の指示にしたがって予約するリソースの値を登録してください。

**画面 23　リソースの予約（起動時）**

# 4　Windows NT Ver. 3.51上にインストール

## 4.1　準備と確認

本製品のインストールを始める前に、以下の項目をご確認ください。
各操作・設定の手順についてはWindows NTのマニュアル・ヘルプをご覧ください。

Windows NTのハードウェア互換性リスト（Windows NTパッケージに同梱されています）に挙げられていないコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのコンピュータ機種でご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。

本書に記載した内容は一例であり、お客様の使用するコンピュータやネットワーク環境によって、手順や表示画面が異なることがあります。

### ハードウェアリソースについて

本製品が使用するハードウェアリソース（I/O アドレス、インタラプトなど）の値は、コンピュータによって自動的に設定され、管理されます。

# 4.2　ドライバーのインストール

ここでは、ご使用のコンピュータに Windows NTが既にインストールされ[†1]、かつ「LANアダプター用ドライバーを含むネットワーク環境が全くインストールされていない」場合[†2]について説明します。また、Windows NTが要求する問い合わせに対して、基本的にはデフォルトで答えると仮定しています。

† 1 Windows NT のインストールの際に本製品のインストールを同時に行うこともできます。この場合は画面の指示にしたがって実行してください。

† 2「Windows NT ネットワークのインストール」で「まだネットワークに接続しない (D)」を選択した場合に相当します。

## 4.2.1　準備

### 用意するもの

1. corega FastEther PCI-TX本体・ネットワークケーブル等
2. コンピュータ（Windows NT 3.51インストール済み）
3. Windows NTのマスターディスク（CD-ROMまたはフロッピーディスク）
4. corega FastEther PCI-TXドライバーディスク（本製品付属）

[注] ドライバーは常に最新のものをご使用下さい。最新のドライバーはコレガ社のホームページより入手できます。（http://www.corega.co.jp）

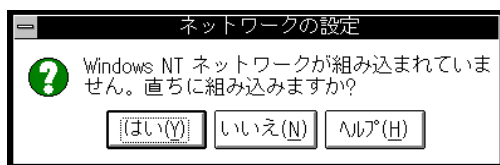
### インストールの前に

1. 「2　ハードウェアの設定」にしたがって、コンピュータの電源をオフにし、本製品をコンピュータの拡張スロットに挿入します。
2. 本製品をネットワークに接続します。
3. コンピュータに電源を投入し、Windows NTを起動します。

### 4.2.2　インストール手順

1. 「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

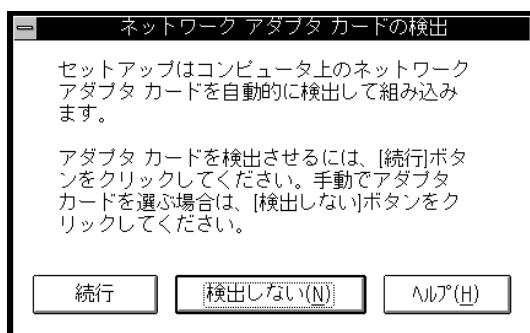
**画面１　ネットワーク（コントロールパネル）**

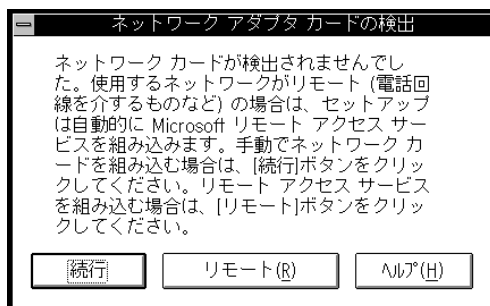
2. 下の画面で、「はい」をクリックしてください。

**画面２**

3.　「Windows NT セットアップ」が起動します。Windows NTのマスターディスク（ここではCD-ROMを使用するとします）をドライブに挿入し、Windows NTの配布ファイルへのフルパス（AT互換機では「**I386**」、PC-98では「**PC98**」となります）を入力します。（ここでは、CD-ROMドライブをD:と仮定します。）

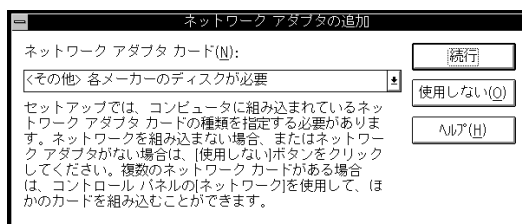
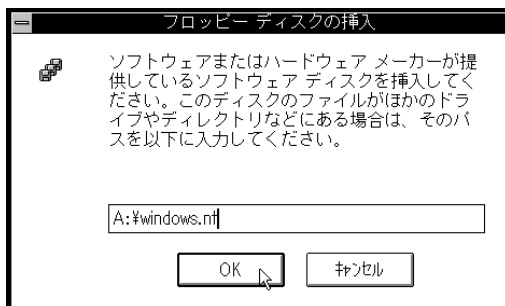
**画面 3**

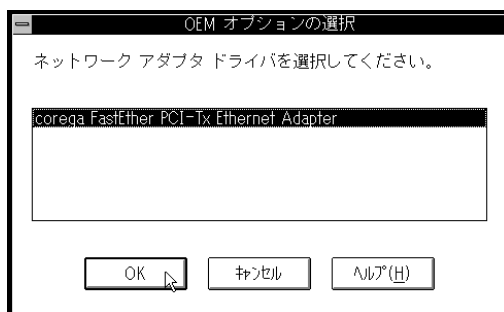
† プロトコルなどのネットワーク環境が既にインストールされている場合は「ネットワークの設定」（画面13参照）が表示されます。この場合は「アダプタカードの追加..」をクリックしてください。画面6が表示され、本製品のみのインストールが始まります。

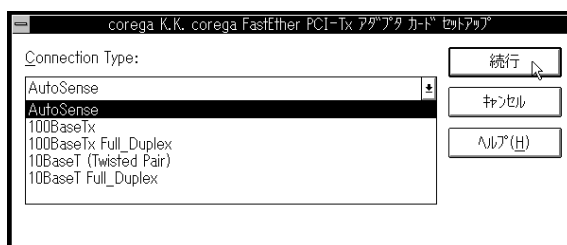
4.　「検出しない」をクリックしてください。

**画面 4**

5.　「続行」をクリックしてください。

**画面 5**

6.　「ネットワークアダプタの追加」ダイアログが表示されます。「ネットワークアダプタカード(N):」リストボックスで「＜その他＞各メーカーのディスクが必要」（下から 2 行目）を選択し、「続行」をクリックします。

**画面 6**

7.　corega FastEther PCI-TXドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、パス「A:**\windows.nt**」を入力してください。（ここでは、フロッピーディスクドライブを A:と仮定します。）

**画面 7　パスの入力**

8.　「corega FastEther PCI-TX Ethernet Adapter」がアクティブになっていることを確認して、「OK」をクリックして下さい。

**画面8**

9.　続いて、ご使用のネットワークケーブルの種類を選択します。下の解説を参考にして、適切な項目を選択し、「続行」をクリックしてください。

**画面9**

**AutoSense（デフォルト）**

Auto-negotiationを有効（Enabled）に設定します。この項目を選択した場合、対向機器の仕様によって動作は以下のように変わりますのでご注意ください。（Auto-negotiationについての詳細は「1.5　Full duplexとAuto-negotiation機能」をご覧ください。）

**対向装置がAuto-negotiationをサポートしている場合**

可能な最高の速度（10/100 Mbps）およびモード（Full/Half duplex）となります。

**対向装置がAuto-negotiationをサポートしていない場合**

対向装置がAuto-negotiation機能をサポートしていない場合、およびサポートしていても無効に設定している場合にこの「AutoSense」を選択すると、ネットワークメディアは通信速度（100/10 Mbpsの別）のみを自動的に検出し、検出された速度のHalf duplexモードとなります。したがって、対向機器が 100MbpsのFull duplexモードをサポートしていても

Auto-negotiation機能をサポートしていない場合に、最高速度（100Mbps全二重）を得るためには、後述の「100BaseTx Full_Duplex」を選択する必要がありますのでご注意ください。

**100BaseTx**

100MbpsのHalf duplex（半二重）モードに設定します。

**100BaseTx Full_Duplex**

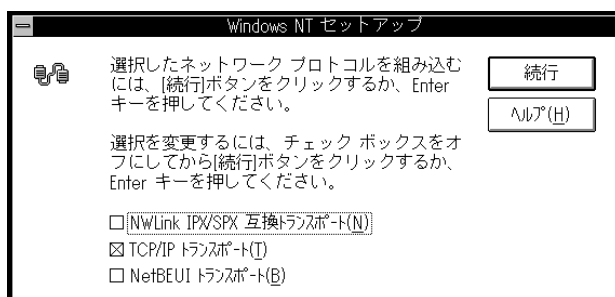
100MbpsのFull duplex（全二重）モードに設定します。

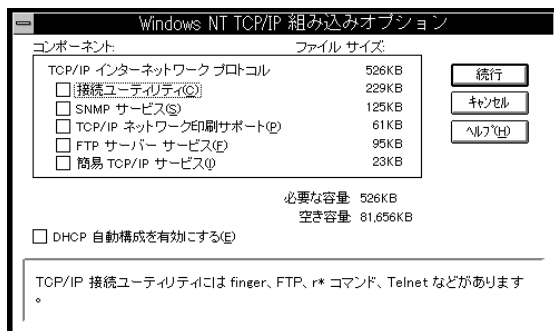
**10BaseT (Twisted Pair)**

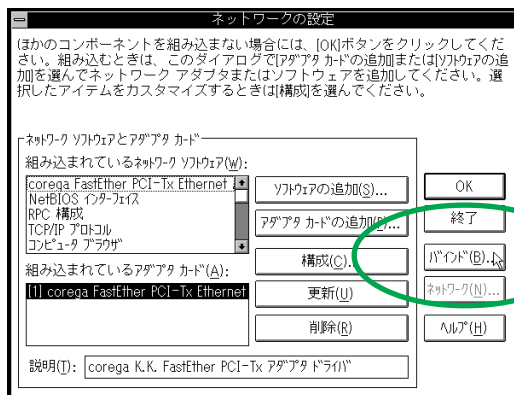
10MbpsのHalf duplex（半二重）に設定します。

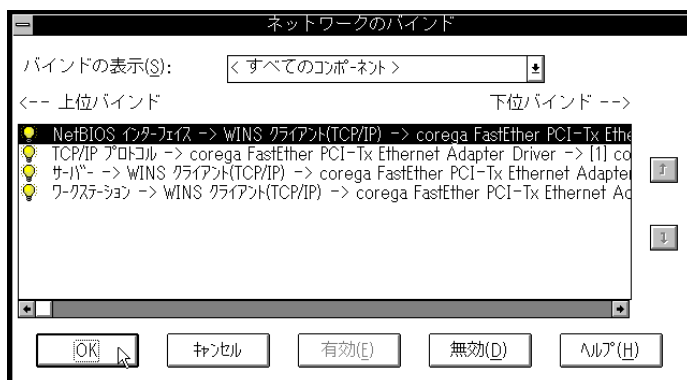
**10BaseT Full_Duplex**

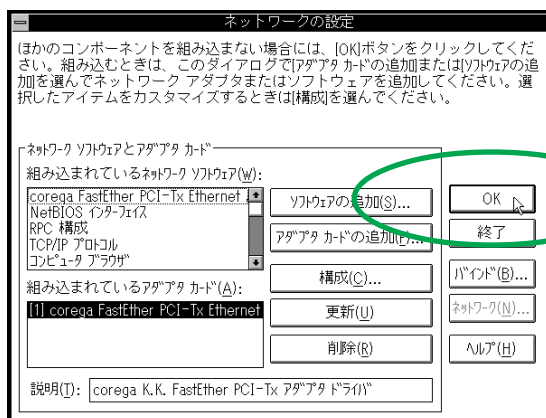
10MbpsのFull duplex（全二重）に設定します。

10. ネットワークで使用されているプロトコルをチェックして「続行」をクリックします。お客様のネットワークでどのようなプロトコルが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。ここでは、「TCP/IPトランスポート(T)」のみをチェックすると仮定します。

**画面 10　プロトコルの選択**

11. 手順 10 で TCP/IPを選択した場合は TCP/IPオプションに関する設定画面が表示されます。お客様の環境に合わせて適宜設定し、「続行」をクリックして下さい。

**画面 11　TCP/IP オプションの選択**

12. ファイルのコピーが行われます。コピーが終了すると下のダイアログが表示されます。「組み込まれているアダプタカード(A):」に「corega FastEther PCI-Tx Ethernet Adapter」が表示されていることを確認して、「バインド(B)」をクリックしてください。

**画面 12**

13.　使用するプロトコルスタックを選択し、「OK」をクリックしてください。プロトコルスタックが本製品にバインドされます。

**画面 13　プロトコルの選択**

14.　「OK」をクリックします。

**画面 14**

15. TCP/IPに関する設定画面が表示されます。各項目をご使用の環境に合わせて設定し、「OK」をクリックしてください。詳細はシステム管理者にご確認ください。

**画面 15　TCP/IP の構成（起動時）**

DNS の構成
ホスト名(N): corega01　ドメイン名(I):
ドメイン ネーム サービス (DNS) の検索順序(S)
追加(A) ->
<- 削除(R)
順序
ドメイン サフィックスの検索順序(O)
追加(A) ->
<- 削除(R)
順序
OK　キャンセル　ヘルプ(H)
このダイアログ ボックスの DNS ネットワークの構成を反映するには、[OK]をクリックします。

**画面 16　DNS の構成（画面 15 で「DNS」をクリック）**

**画面 17　TCP/IP の詳細設定（画面 15 で「詳細」をクリック）**

16.　続いて「ドメイン／ワークグループの設定」が表示されます。ここでは、「ワークグループ」に参加すると仮定します。詳細はシステム管理者にご確認ください。

ドメイン/ワークグループの設定

コンピュータ名:　COREGA01

次のメンバー:

◉ ワークグループ(W):　WORKGROUP

○ ドメイン(D):

OK

ｷｬﾝｾﾙ

ﾍﾙﾌﾟ(H)

☐ コンピュータ アカウントの作成(C)
(ドメイン管理者のみ)

ユーザー名(U):

パスワード(P):

ワークグループに参加するには、[ワークグループ]に参加したいグループ名を入力して[OK]ボタンをクリックしてください。
既にこのコンピュータのアカウントが登録されているドメインに参加するには、その名前を入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。

このコンピュータのコンピュータ アカウントを追加しなければならない場合は、[ユーザー名]オプションを選択し、ドメインにワークステーションを追加する権限のあるアカウントの名前とパスワードを入力してください。

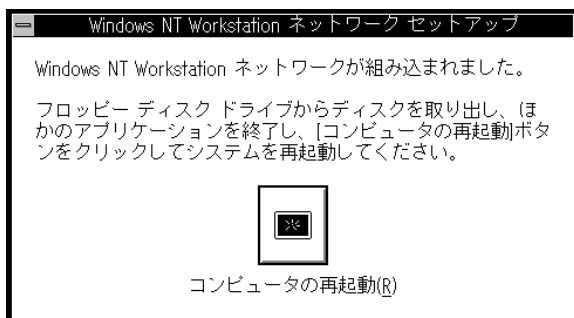
**画面 18　ドメイン／ワークグループの設定**

17.　下の画面が表示されたらフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取りだし、「コンピュータの再起動」アイコンをクリックして、再起動します。これで設定内容が有効化されます。

Windows NT Workstation ネットワーク セットアップ

Windows NT Workstation ネットワークが組み込まれました。

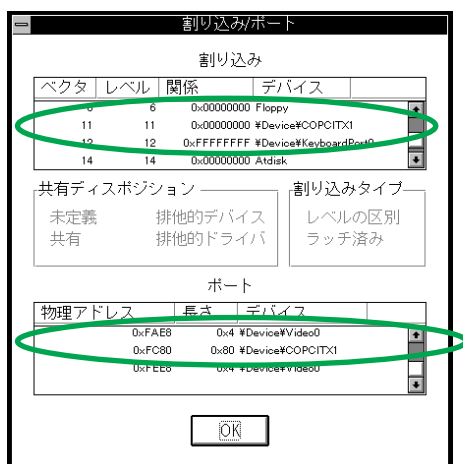
フロッピー ディスク ドライブからディスクを取り出し、ほかのアプリケーションを終了し、[コンピュータの再起動]ボタンをクリックしてシステムを再起動してください。

コンピュータの再起動(R)

**画面 19**

# 4.3　インストール後

## 4.3.1　リソースの確認

コンピュータを再起動すると、本製品に対してリソース（I/O アドレス、インタラプト）が割り当てられます。これらの値はPCIローカルバス仕様によりコンピュータによって自動的に設定され、管理されます。割り当てられた値を確認するには「Windows NT診断プログラム」をご使用ください。

「プログラムマネージャ」→「管理ツール」→「Windows NT診断プログラム」→「IRQ/ポートの状態(I)」と進むと、下の画面（例）が表示されます。本製品に割り当てられたリソースは、それぞれ、デバイス「**COPCITX***」（*は数字、インストールされているLANアダプターの数を表します）の項に表示されます。

**画面 20**

## 4.3.2　本製品を使用しないとき

ドライバーのインストール後、一時的に本製品およびネットワークを使用しない場合（＝ネットワークケーブルを外している、ハブの電源をオフにしている場合など）はドライバーをアンロード（バインドしない）してください。ドライバーがロードされたまま上述の作業を行うと、Windows NTはネットワークのエラーとして検出し、イベントビューアによる警告が表示されるようになります。この現象はドライバーをアンロードすることによって回避できます。

**手順**

(1)　「コントロールパネル」→「ネットワーク」→「ネットワークの設定」→「バインド(B)..」と進みます（画面12参照）。

(2)　本製品に関する項目全てについて、左端の電球のマークをクリックして（または、項目を選択して「無効」をクリックして、）電球が消えている状態にしてください。

**画面21**

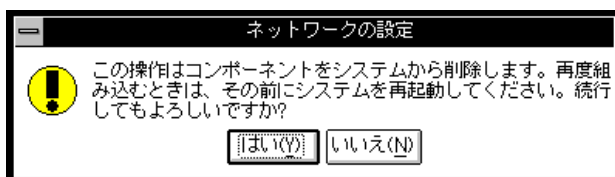
# 4.4 ドライバーの削除と再インストール

本製品のドライバーおよび登録内容を削除し、再びインストールする手順は以下のとおりです。ただし、ドライバーを削除しても、本製品にバインドしていたプロトコルやサービスは削除されません (一部の設定値、例えばTCP/IPにおけるIPアドレスなどは削除されます)。したがって、本製品を再インストールすれば、再びそれらのプロトコル、サービスなどを使用できます。

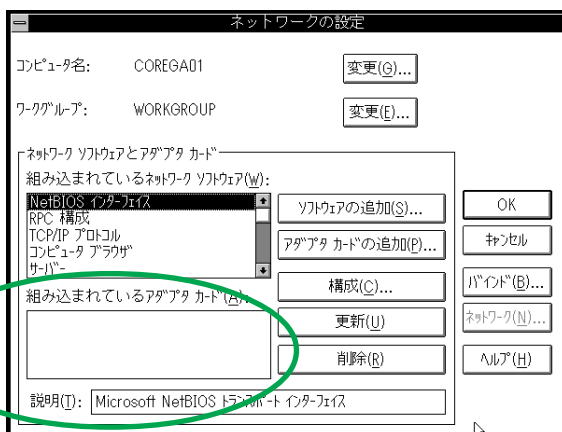
## 4.4.1 ドライバーの削除

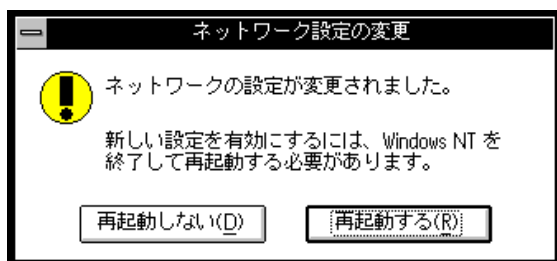
1. 「プログラムマネージャ」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」とたどって行き、「ネットワークの設定」ダイアログを表示します。「組み込まれているアダプタカード」リストから「corega FastEther PCI-Tx Ethernet Adapter」を選択し、「削除」をクリックします。

ネットワークの設定
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名: COREGA01 変更(G)...
ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ: WORKGROUP 変更(E)...
ﾈｯﾄﾜｰｸ ｿﾌﾄｳｪｱとｱﾀﾞﾌﾟﾀ ｶｰﾄﾞ
組み込まれているﾈｯﾄﾜｰｸ ｿﾌﾄｳｪｱ(W):
corega FastEther PCI-Tx Ethernet
NetBIOS ｲﾝﾀｰﾌｪｲｽ
RPC 構成
TCP/IP ﾌﾟﾛﾄｺﾙ
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ ﾌﾞﾗｳｻﾞ
組み込まれているｱﾀﾞﾌﾟﾀ ｶｰﾄﾞ(A):
[1] corega FastEther PCI-Tx Ethernet
ｿﾌﾄｳｪｱの追加(S)...
ｱﾀﾞﾌﾟﾀ ｶｰﾄﾞの追加(P)...
構成(C)...
更新(U)
削除(R)
OK
ｷｬﾝｾﾙ
ﾊﾞｲﾝﾄﾞ(B)...
ﾈｯﾄﾜｰｸ(N)...
ﾍﾙﾌﾟ(H)
説明(T): corega K.K. FastEther PCI-Tx ｱﾀﾞﾌﾟﾀ ﾄﾞﾗｲﾊﾞ

**画面 22**

2. 「はい」をクリックします。

**画面 23**

3.　「組み込まれているアダプタカード」から「corega FastEther PCI-TX Ethernet Adapter」が消えていることを確認して「OK」をクリックします。

**画面24**

4.　「再起動する」をクリックして、（フロッピーディスクが入っている場合は取り出して）コンピュータを再起動します。

**画面25**

## 4.4.2　再インストール

終了後、再びドライバーのインストールを行う場合はネットワーク（コントロールパネル）を起動し、「アダプタカードの追加..」をクリックして下さい。（「4.2.2　インストール手順」の手順6から再開することになります。）

# 5　Windows NT Ver.4.0上にインストール

## 5.1　準備と確認

本製品のインストールを始める前に、以下の項目をご確認ください。
各操作・設定の手順についてはWindows NTのマニュアル・ヘルプをご覧ください。

Windows NTのハードウェア互換性リスト（Windows NTパッケージに同梱されています）に挙げられていないコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。

本書に記載した内容は一例であり、お客様の使用するコンピュータやネットワーク環境によって、手順や表示画面が異なることがありますので予めご了承ください。

### ハードウェアリソースについて

本製品が使用するハードウェアリソース（I/O アドレス、インタラプト）の値は、コンピュータによって自動的に設定され、管理されます。

本書では Windows NT Ver. 4.0 Workstationを用いて説明します

# 5.2　ドライバーのインストール

ここでは、ご使用のコンピュータに Windows NTが既にインストールされ[†1]、かつ「LANアダプター用ドライバーを含むネットワーク環境が全くインストールされていない」場合[†2]について説明します。また、Windows NTが要求する問い合わせに対して、基本的にはデフォルトで答えると仮定しています。

†1 Windows NT のインストールの際に本製品のインストールを同時に行うこともできます。この場合は画面の指示にしたがってインストールを実行してください。

†2「Windows NT ネットワークのインストール」で「まだネットワークに接続しない (D)」を選択した場合に相当します。

## 5.2.1　準備

**用意するもの**

1. corega FastEther PCI-TX本体・ネットワークケーブルなど
2. コンピュータ（Windows NT 4.0インストール済み）
3. Windows NTの CD-ROM
4. corega FastEther PCI-TXドライバーディスク（本製品付属）

[注] ドライバーは常に最新のものをご使用下さい。最新のドライバーはコレガ社のホームページより入手できます。（http://www.corega.co.jp）

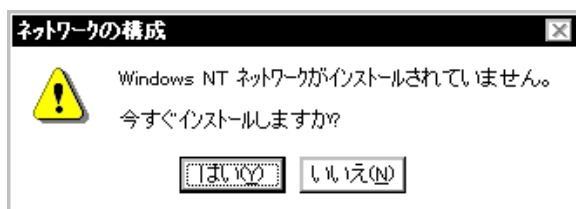
**インストールの前に**

1. コンピュータの電源をオフにし、本書「2　ハードウェアの設定」にしたがって、本製品をコンピュータの拡張スロットに挿入します。
2. 本製品をネットワークに接続します。

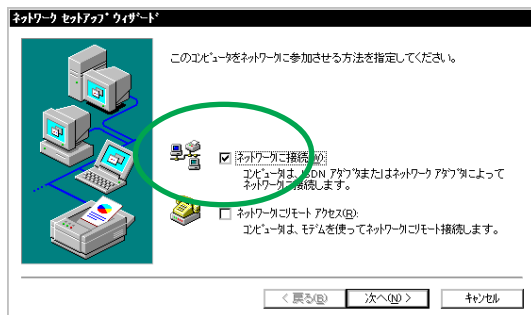
## 5.2.2　インストール手順

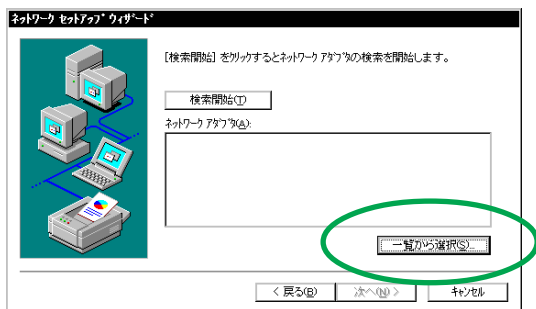
1.　「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」と進み、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。

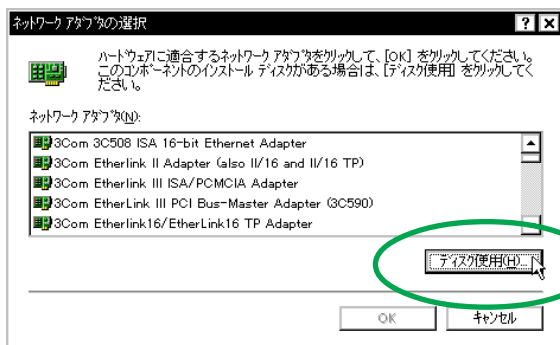
**画面1　「ネットワーク」（コントロールパネル）**

2.　下のダイアログが表示されます[†1]。「今すぐインストールしますか？」の問いに対して、「はい (Y)」をクリックしてください。

**画面2**

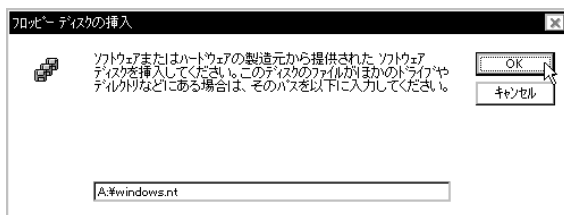
†1 このダイアログではなく「ネットワーク」パネルが表示された場合は、既にネットワークに関する WindowsNT ファイルがインストールされています。この場合は「アダプタ」タブ→「追加」と進み、本製品のみのインストールを実行してください。（手順(4)から実行することになります。）

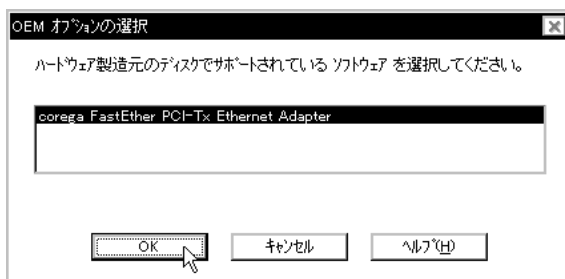
3.　「ネットワークセットアップウィザード」ダイアログが表示されます。「ネットワークに接続 (W):」にチェックマークを付け、「次へ (N)>」をクリックしてください。

**画面 3**

4.　下の画面が表示されたら、「一覧から選択 (S)...」をクリックしてください。

**画面 4**

5.　「ディスク使用」をクリックしてください。

**画面 5**

6.　下のダイアログが表示されますので、ドライバーディスクをディスクドライブに挿入し、パス「A:**\windows.nt**」を入力し、「OK」をクリックしてください。（ここでは、フロッピーディスクドライブを A:と仮定します。）

**画面 6**

7.　「corega FastEther PCI-Tx Ethernet Adapter」を選択し、「OK」をクリックしてください。

OEM オプションの選択
ハードウェア製造元のディスクでサポートされている ソフトウェア を選択してください。
corega FastEther PCI-Tx Ethernet Adapter
OK　キャンセル　ヘルプ(H)

**画面 7**

8.　「ネットワークアダプタ (A):」の「corega FastEther PCI-Tx Ethernet Adapter」にチェックマークを付け、「次へ (N):」をクリックしてください。

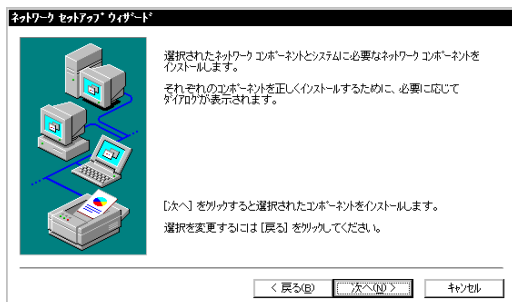
**画面 8**

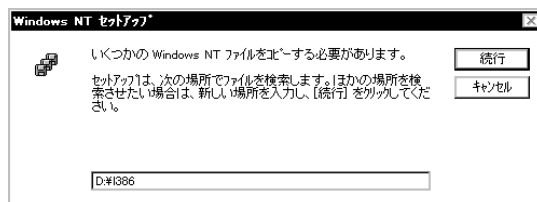
9.　使用するネットワークプロトコルにチェックマークを付け、「次へ (N)>」をクリックしてください。(詳細はシステム管理者にご相談ください。)ここでは、「TCP/IPプロトコル」のみをチェックすると仮定します。

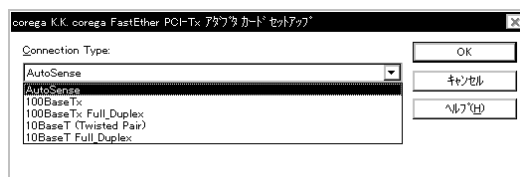
**画面9**

10.　使用するサービスを設定し、「次へ (N)>」をクリックしてください。お客様のネットワークでどのようなサービスが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。

**画面10**

11.　メッセージを確認して、「次へ (N)>」をクリックしてください。

**画面11**

12.　Windows NTのインストール元のディレクトリを指定してください。AT互換機の場合は「**I386**」、PC-98の場合は「**PC98**」となります。（ここでは CD-ROM ドライブを D:と仮定します。）

**画面 12**

13.　続いて、ご使用のネットワークメディア（ネットワークケーブル）の種類を選択します。下の解説を参考にして、適切な項目を選択し、「続行」をクリックしてください。

**画面 13**

**AutoSense（デフォルト）**

Auto-negotiationを有効（Enabled）に設定します。この項目を選択した場合、対向機器の仕様によって動作は以下のように変わりますのでご注意ください。（Auto-negotiationについての詳細は「1.5　Full duplexとAuto-negotiation機能」をご覧ください。）

**対向装置がAuto-negotiationをサポートしている場合**

可能な最高の速度（10/100 Mbps）およびモード（Full/Half duplex）となります。

**対向装置がAuto-negotiationをサポートしていない場合**

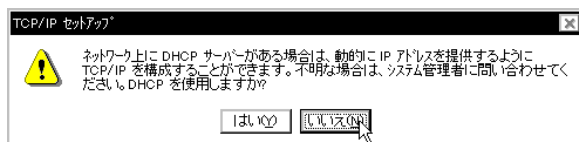
対向装置がAuto-negotiation機能をサポートしていない場合、およびサポートしていても無効に設定している場合にこの「AutoSense」を選択すると、ネットワークメディアは通信速度（100/10 Mbpsの別）のみ自動的に検出し、検出された速度のHalf duplexモードとなります。したがって、対向機器が 100MbpsのFull duplexモードをサポートしていてもAuto-negotiation機能をサポートしていない場合に最高速度（100Mbps Full duplex）を得るためには、後述の「100BaseTx Full_Duplex」を選択する必要がありますのでご注意ください。

**100BaseTx**
100MbpsのHalf duplex（半二重）モードに設定します。

**100BaseTx Full_Duplex**
100MbpsのFull duplex（全二重）モードに設定します。

**10BaseT (Twisted Pair)**
10MbpsのHalf duplex（半二重）に設定します。

**10BaseT Full_Duplex**
10MbpsのFull duplex（全二重）に設定します。

14. ドライバーおよび Windows ファイルのコピーが始まります。手順 9 でTCP/IPを選択した場合はここで「DHCP を使用するか？」を質問されます。ここでは、デフォルトである「いいえ (N)」をクリックすると仮定します。

**画面 14**

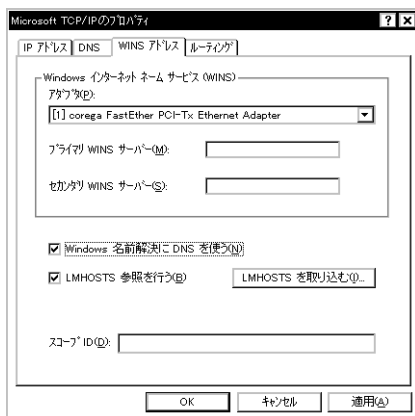
15. 14.で「DHCP を使用しない」設定とした場合は「TCP/IPのプロパティ」としてIP アドレスなどの値を設定しなければなりません。これらの値は、お客様の環境における値を入力してください。

Microsoft TCP/IPのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ
IP ｱﾄﾞﾚｽ | DNS | WINS ｱﾄﾞﾚｽ | ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ
DHCP ｻｰﾊﾞｰから IP ｱﾄﾞﾚｽを取得し、このﾈｯﾄﾜｰｸ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ ｶｰﾄﾞに自動的に割り当てることができます。ﾈｯﾄﾜｰｸに DHCP ｻｰﾊﾞｰがない場合は、ﾈｯﾄﾜｰｸ管理者にｱﾄﾞﾚｽを問い合わせて、そのｱﾄﾞﾚｽを下のﾎﾞｯｸｽに入力してください。
ｱﾀﾞﾌﾟﾀ(P):
[1] corega FastEther PCI-Tx Ethernet Adapter
DHCP ｻｰﾊﾞｰから IP ｱﾄﾞﾚｽを取得する(O)
IP ｱﾄﾞﾚｽを指定する(S)
IP ｱﾄﾞﾚｽ(I):
ｻﾌﾞﾈｯﾄ ﾏｽｸ(U): 255 255 0 0
ﾃﾞﾌｫﾙﾄ ｹﾞｰﾄｳｪｲ(G):
詳細(D)...
OK | ｷｬﾝｾﾙ | 適用(A)

**画面 15**

16. DNS (Domain Name System) の設定をします。「DNS」のタブをクリックしてください。下に入力例を示します。ここでは、ホスト名として「corega01」を仮定しています。

**画面 16**

17. 続いて、「WINS（Windows Internet Name Service）アドレス」の設定を行います。下の画面では、「Windows 名前解決に DNS を使う (N)」を仮定しました。

**画面 17**

必要であれば、さらに「ルーティング」の設定を行い†、最後に「OK」をクリックしてください。これらの設定の詳細についてはシステム管理者にご確認ください。

† この画面は Windows NT Workstation のものです。Windows NT Server をご使用の場合はさらに「DHCP リレー」タブがあります。DHCP リレーについての詳細は Windows NT Server のマニュアルまたはオンラインヘルプをご覧ください。

18.　「次へ (N)」をクリックしてください。

**画面 18**

19.　「次へ (N)」をクリックしてください。

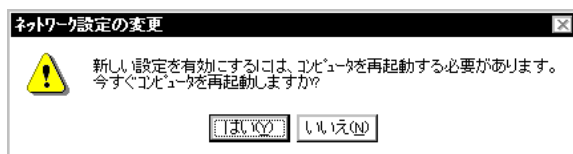
**画面 19**

20.　「次へ (N)」をクリックしてください。ここでは「ワークグループ (W)」をそのまま使用すると仮定します。詳細はシステム管理者にご確認下さい。

**画面 20**

21.　「完了」をクリックしてください。

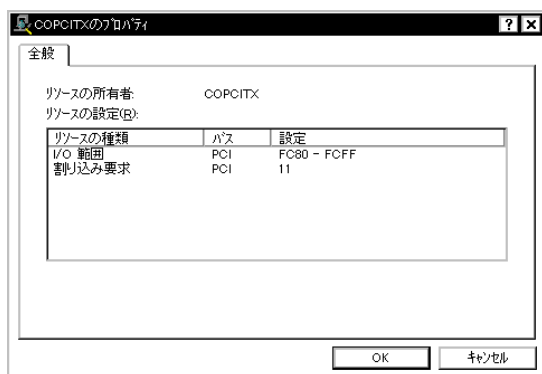
**画面 21**

22.　「はい (Y)」をクリックし、(フロッピーディスクを取り出して) コンピュータを再起動してください。

**画面 22**

# 5.3　インストール後

## 5.3.1　リソース値の確認

コンピュータを再起動すると、本製品に対してリソース（I/O アドレス、インタラプトなど）が割り当てられます。これらの値はPCIローカルバス仕様により、コンピュータによって自動的に設定され、管理されます。割り当てられた値を確認するには 「Windows NT診断プログラム」をご使用ください。

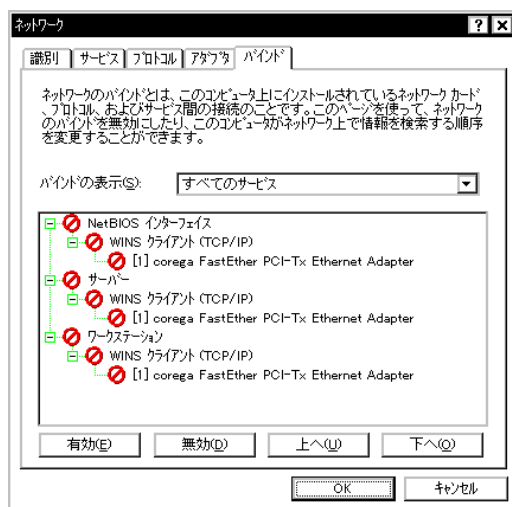
本製品に割り当てられたリソースを確認するには「スタート」→「プログラム」→「管理ツール（共通）」→「Windows NT診断プログラム」→「リソース」→「デバイス」→「COPCITX」→「プロパティ」と進んでください。本製品に割り当てられたリソースが一覧表示されます。

**画面23　リソースの表示**

## 5.3.2　本製品を使用しないとき

ドライバーのインストール後、一時的に本製品およびネットワークを使用しないとき（＝ネットワークケーブルを外している、ハブの電源をオフにしている場合など）はドライバーをアンロード（バインドしない）してください。ドライバーがロードされたまま前述の作業を行った場合、Windows NTはネットワークのエラーとして検出し、イベントビューアによる警告が表示されます。この現象はドライバーをアンロードすることによって回避できます。

1.　「コントロールパネル」→「ネットワーク」→「バインド」と進みます。

2.　本製品のアイコンを選択し、「無効」ボタンをクリックすると本製品およびプロトコルのアイコンが無効を示すアイコン（画面24参照）に変わります。

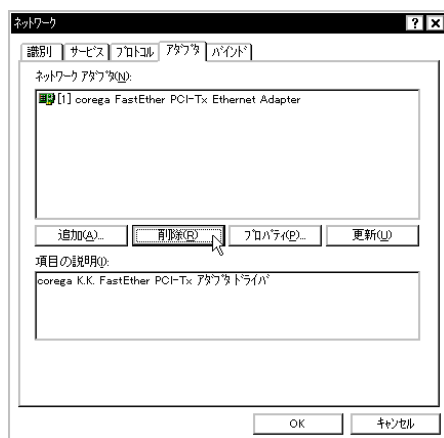
3.　同様の手続きを、本製品にバインドしているプロトコル全てに対して行います。

**画面24　ドライバーのアンロード**

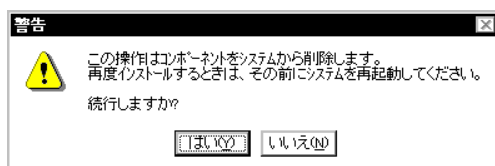
# 5.4　ドライバーの削除と再インストール

本製品の登録内容を削除し、再びインストールする手順は以下のとおりです。ただし、ドライバーを削除しても、本製品にバインドしていたプロトコルやサービスは削除されません (一部の設定値、例えばTCP/IPにおけるIPアドレスなどは削除されます)。したがって、本製品を再インストールすれば、再びそれらのプロトコル、サービスなどを使用できます。

## 5.4.1　ドライバーの削除

1.　「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」とたどって行き、「ネットワーク」パネルの「アダプタ」タブをクリックしてください。

2.　「ネットワークアダプタ (N):」で「corega FastEther PCI-Tx Ethernet Adapter」を選択し、「削除 (R)」ボタンをクリックしてください。

画面25

3.　「はい」をクリックし、(フロッピーディスクが入っている場合は取り出して) コンピュータを再起動します。

画面26

### 5.4.2　再インストール

終了後、再びドライバーのインストールを行う場合は「ネットワーク」（コントロールパネル）を起動し、「アダプタ」タブで「追加..」をクリックして下さい。
（「5.2.2　インストール手順」の手順10から再開することになります。）

# 付録A　ハードウェア診断プログラム

本製品を使用しているときに障害が起こったら、付属のハードウェア診断プログラム**DIAGAT.EXE（AT互換機用）・DIAG98.EXE（PC-98用）**をご使用下さい。 これらは、ドライバーディスクのルートディレクトリに収められています。本製品が正常に動作するかを確認するとき、または本製品を使用中に異常が生じた場合に原因を究明するためにお使いください。

## A.1　概要

DIAGAT.EXE（AT互換機用）・DIAG98.EXE（PC-98用）は以下の順番でハードウェアのテストを行い、エラーを検出するとメッセージを表示して終了します。

(1)　I/Oポートのテスト
(2)　物理アドレス（ROM）の読みだしテスト
(3)　インタラプト（割り込み）のテスト
(4)　制御回路の機能試験
(5)　ループバックテスト1

# A.2　テストの手順（Windows95）

（1）　本製品をネットワークに接続してください。

（2）　Windows95を再起動し、"Starting Windows95..." または "Windows95 を起動しています…" というメッセージが出ている間にキーボードの **F8** キーを押します。

（3）　メニューが表示されたら、「Command prompt only」を選択します。（項目の番号（下の画面では6番）はお使いの環境によって異なります。）

```
Microsoft Windows 95 Startup Menu
=================================

   1. Normal
   2. Logged (\BOOTLOG.TXT)
   3. Safe mode
   4. Safe mode with network support
   5. Step-by-step confirmation
   6. Command prompt only
   7. Safe mode command prompt only
   8. Previous version of MS-DOS

Enter a choice: 6
```

（4）　ドライバーディスクをフロッピードライブに入れ、DIAGAT・DIAG98コマンドを実行します。

コマンドの入力形式は以下の通りです。（" *drv* "はディスクドライブ名）

**AT互換機**

```
drv:\> diagat
```

**PC-98**

```
drv:\> diag98
```

# A.3　テストの手順（Windows NT）

## A.3.1　Windows NTにおける特記事項

**本プログラムは MS-DOSモードで動作します。**Windows NTのMS-DOSプロンプトウィンドウ（NT 3.51では「コンソール」、NT4.0では「コマンドプロンプト」と呼びます）では動作しません。本プログラムを使用できるのはご使用のコンピュータでMS-DOSを使用できる場合に限られますのでご了承ください。

## A.3.2　使用手順

（1）　コンピュータの電源がオフであることを確認して、拡張スロットに本製品を挿入します。

（2）　コンピュータに電源を入れ、MS-DOS を起動します。

（3）　本製品をネットワークに接続してください。

（4）　「A.2　テストの手順（Windows95）」の手順(4)にお進みください。

## A.4　正常に試験が終了した場合

試験が正常に終了した場合の画面への出力例を示します。（下はAT互換機の場合）

```
corega FastEther PCI-TX Diagnostic Version 1.0 pl 0 [AT/IBM-PC]
Copyright (c) 1997 corega K.K. All rights reserved
    Mapped Address: D400
         Int Lebel: 5
           IO Base: 300
          IO Check: OK
     Ether Address: 00 00 f4 5a 00 10
  Buffer RAM Check: OK         (16)
   Interrupt Check: OK
  Loopback Check 1: OK
  Loopback Check 2: OK

  All Check Terminated
```

テストの結果、異常が検出されるとエラーメッセージが返されます。各エラーメッセージの内容についてはA.5項をご覧ください。

## A.5 エラーメッセージ

DIAGAT・DIAG98によって表示されるエラーメッセージについて解説します。

**Error : CPU is not 386.**

本製品を組み込んだコンピュータのCPUが、386以上でない場合に表示します。

**Error : Device not found.**

本製品が正しく装着されていない場合に表示されます。

**IO Check: NG**

Ｉ／Ｏチェックでエラーが発生しました。

下の「Loopback Check #」の「#」マークは、数字の1または2を示します。

**Loopback Check #: Tx timeout**

データの送信時タイムアウトが発生しました。

**Loopback Check #: Rx timeout**

データの受信時タイムアウトが発生しました。

# 付録B　製品仕様

## B.1　規格仕様

### 1　ハードウェア仕様

信号　　：　IEEE802.3　10BASE-T
　　　　　　IEEE802.3u　100BASE-TX
　　　　　　IEEE802.3u　Auto-negotiation

### 2　機械的仕様

外形　　：　PCIローカルバス仕様Rev.2.1に準拠
　　　　　　139.1［mm］×70.0［mm］　（ブラケット部分を除く）
重量　　：　75g

### 3　電気的仕様

動作電圧：　DC＋5V±5%
消費電流：　340 mA (max)

### 4　環境条件

周囲温度：　0～55℃
湿度　　：　最大95%（但し、結露なきこと）

### 5　電気雑音の発生防止

雑音端子電圧：VCCIクラスB
雑音電界強度：VCCIクラスB

### 6　使用するハードウェア資源

DMA　：　1チャネル
IRQ　：　1つ
I/O　：　連続した16バイト

（注）これら３つの値はPCIローカルバス仕様により自動的に設定されます。ユーザによるボード上またはソフトウェアからの設定は必要ありません。

# B.2　RJ-45インターフェース

本製品はRJ-45型と呼ばれるモジュラージャックを使用しています。
図B-1に、RJ-45モジュラージャックの信号線を図示します。

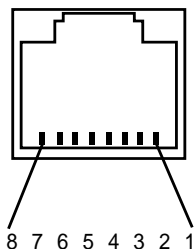



**図 B-1　RJ-45 モジュラージャック**

| | | |
|---|---|---|
| (1) | TX+ | 送信データ(+) |
| (2) | TX- | 送信データ(-) |
| (3) | RX+ | 受信データ(+) |
| (4) | --- | 未使用 |
| (5) | --- | 未使用 |
| (6) | RX- | 受信データ(-) |
| (7) | --- | 未使用 |
| (8) | --- | 未使用 |

# B.3　MACアドレス

Ethernetに接続される機器は、MACアドレス†と呼ばれるアドレスを使って通信を行います。MACアドレスは機器 (アダプター) のひとつひとつに割り当てられた唯一無二の (unique、ユニークな) アドレスです。

† MAC アドレス（マックアドレスと読みます）は、物理アドレス、ネットワークアドレス、イーサネットアドレス と呼ばれることもあります。また、MAC アドレスは、TCP/IP の環境 で使用される IP アドレスに関係がありますが、これらは別物です。

MACアドレスは、下記の 6 バイト (48ビット)によって構成されており、本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。

本製品のMACアドレスは、製品裏面に貼付されているMACアドレスラベルに記入されています (表記は全て16進数)。

| 00 | 00 | F4 | 5A | xx | xx |
|---|---|---|---|---|---|
| ベンダーID (*1) | | | 通し番号 (*2) | | |

(*1)　ベンダー ID:　LANベンダー (LAN用機器を製造しているメーカー) が IEEE に申請することにより得られる識別番号。

(*2)　この番号は、当社が製品の一つ一つに割り当てた通し番号で、本製品では **5A** から始まる 6 桁の数値になっています。
（この番号はシリアルナンバーとは別物です。）

# 付録S　保証・ユーザーサポート

## 保証

本書に記載されている「製品保証規定」をお読みになり、「ユーザー登録用紙」に必要事項を記入して、弊社「ユーザー登録係」までご返送ください。「ユーザー登録用紙」が返送されていない場合、修理や障害発生時のユーザーサポートを受けられません。

## ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAXしてください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAXによって詳細な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書のご記入のお願い」をご覧ください。

Tel:　045-476-6268
月～金（祝・祭日を除く）10:00-12:00、13:00-17:00
Fax:　045-476-6294
年中無休 24 時間

# 調査依頼書のご記入のお願い

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも以下の点にそって、十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

# ハードウェアとソフトウェア

* 本製品上に貼られたラベルに記入されている下記のシリアル番号(S/N)、製品リビジョンコード(Rev)を調査依頼書に記入して下さい。
  (例) S/N 000770000002346 Rev AA
* ご使用になっているソフトウェアの種類／バージョン（Ver.）／シリアル番号を記入してください。それらは、ドライバーディスクのラベル上に記入されています。
* 他社のインターフェースボードやユーティリティをご使用の場合は全てご記入下さい。
* 接続しているサーバーの機種とその環境も可能な限りご記入下さい。

# お問い合わせ内容について

* どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に（再現できるように）記入して下さい。
* エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトしたものなどを添付してください。
* 障害などが発生する場合には、本製品と併用されているユーティリティや、アプリケーションの処理内容もご記入下さい。

# ネットワーク構成について

* ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
* 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

# システムレポート添付のお願い

お問い合わせの際には可能な限り、システムレポート（お使いのコンピュータの詳細情報をOSが自動作成するレポート）を出力の上、「調査依頼書」に添付いただきますようお願いいたします。システムレポートを出力する手順は以下の通りです。

## 1. Windows95

（1） コントロールパネルから「システム」を起動し「デバイスマネージャ」タブを表示します。

（2） 「印刷(N)...」ボタンをクリックします。

（3） 「レポートの種類」では「すべてのデバイスとシステムの概要(A)」を選択して下さい。以後、画面の指示にしたがってください。

## 2. Windows NT Ver.3.51

（1） 「プログラムマネージャ」→「管理ツール」と進み、「Windows NT診断プログラム」アイコンをダブルクリックして起動します。

（2） 「ファイル(F)」メニューの「レポートの印刷(P)...」コマンドを選択します。

（3） 「レポートオプションの印刷」オプションでは「すべてレポートする(R)」を選択して下さい。以後、画面の指示にしたがってください。

## 3. Windows NT Ver.4.0

（1） 「スタート」→「プログラム」→「管理ツール（共通）」→「Windows NT診断プログラム」と進み、「Windows NT診断プログラム」を起動します。

（2） 「印刷(N)...」ボタンをクリックします。

（3） 「レポートの作成」が表示されます。各オプションについては、「範囲」は「すべてのタブ(A)」を、「詳細レベル」は「完全(M)」を選択して下さい。以後、画面の指示にしたがってください。

## システムレポートの出力例（Windows95の場合）

ｼｽﾃﾑ ﾘｿｰｽ ﾚﾎﾟｰﾄ　 -　ﾍﾟｰｼﾞ：１

****************** ｼｽﾃﾑの概要 ******************

Windows ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ ： 4.00.950
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名： 不明
CPU の種類： Pentium
ｼｽﾃﾑ ﾊﾞｽの種類： ISA
BIOS 名： Phoenix
BIOS の日付： 01/08/97
BIOS のﾊﾞｰｼﾞｮﾝ： Phoenix NoteBIOS Version 4.05
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの種類： IBM PC/AT
数値ｺﾌﾟﾛｾｯｻ： Not Present
登録ｵｰﾅｰ：ＸＸＸＸＸＸ
登録会社：ＸＸＸＸＸＸ

****************** IRQの概要 ******************

IRQ の使用 ：
　00 - ｼｽﾃﾑﾀｲﾏｰ
　01 - 106 日本語 （A01） ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ （Ctrl+英数）
　02 - ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ 可能な割り込みｺﾝﾄﾛｰﾗ
　03 - 通信ﾎﾟｰﾄ （COM2）
　04 - 通信ﾎﾟｰﾄ （COM1）
　05 - ES1878 Plug and Play AutoDrive
　06 - ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ﾌﾛｯﾋﾟｰ ﾃﾞｨｽｸ ｺﾝﾄﾛｰﾗ
　07 - ﾌﾟﾘﾝﾀ ﾎﾟｰﾄ （LPT1）
　08 - ｼｽﾃﾑ CMOS/ﾘｱﾙ ﾀｲﾑ ｸﾛｯｸ
　10 - PCI ｽﾃｱﾘﾝｸﾞ 用 IRQ ﾎﾙﾀﾞｰ
　11 - PCI ｽﾃｱﾘﾝｸﾞ 用 IRQ ﾎﾙﾀﾞｰ
　11 - corega FastEther PCI-TX Ethernet Adapter
　12 - ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ PS/2 ﾎﾟｰﾄ ﾏｳｽ
　13 - 数値ﾃﾞｰﾀ ﾌﾟﾛｾｯｻ
　IDE/ESDI ﾊｰﾄﾞ ﾃﾞｨｽｸ ｺﾝﾄﾛｰﾗ

# 調査依頼書(corega FastEther PCI-TX 1/2)

年　月　日

## 一般事項

1. 御社名：
   部署名：　　　　　　　　　　　　　　　ご担当者：
   ご連絡先住所：〒
   TEL:　(　　)　　　　　　　　　　FAX:　(　　)
2. 購入先：　　　　　　　　　　　　　購入年月日：
   購入先担当者：　　　　　　　　　　購入先(TEL):　(　　)

## ハードウェアとソフトウェア

1. ご使用のハードウェア機種（製品名)、シリアル番号、リビジョン

   製品名：corega ________________

   S/N________________ Rev___

   ドライバーディスクのバージョン Ver. _____ pl ___

2. ご使用のコンピュータ機種と併用している他メーカーの拡張アダプター (ボード)
   コンピュータのメーカー名／機種：
   OS とバージョン：
   拡張アダプターのメーカー名／機種：

3. ご使用のサーバー機種 (UNIX、NetWare、Windows NT など)
   コンピュータのメーカー名／機種：
   OS とバージョン：

## お問い合わせ内容

□別紙あり　□別紙なし
□設置中に起こっている障害　□設置後、運用中に起こっている障害

# おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本装置の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。



coregaは、株式会社コレガの商標です。
イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
Windows、Windows NT、MS-DOSは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。
その他本書中で使用するソフトウェアおよび周辺機器の名称は各社の商標または登録商標です。

1997年10月 Ver. 1.0 pl 0 1st release

# 製品保証規定

■この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取り扱い説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が発生した場合に、無償修理をお約束するものです。

■保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます。

■保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外とさせていただきます。（ただし、無償修理の適用外であっても有料での修理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます。）

1. ユーザー登録用紙の記載に記入漏れなどの不備がある場合、またはユーザー登録用紙が弊社へ送られていない場合
2. 使用上の誤り、または不当な修理や改造によって生じた故障および損傷
3. お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損傷
4. 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、異常電圧などの外部要因によって生じた故障および損傷
5. 車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷
6. 消耗品の交換（バックアップ電池など）
7. 製品保証書の提示がない場合
8. 製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き換えられた場合

■修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。

■製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。

■製品保証書は、日本国内のみで有効です。

■製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

# 製品保証書（3年保証）

この製品保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定（裏面）に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。

| 製 品 名　corega ______________________ |
|---|
| シリアル番号<br>（S/N） |
| ご購入日 |
| 製品保証に関するお問い合わせ先<br>**coregaサポートセンター**<br>**〒222　神奈川県横浜市港北区新横浜1-19-20**<br>**TEL：045-476-6268　FAX：045-476-6294**<br>受け付け時間：10:00〜12:00/13:00〜17:00<br>月〜金（祝・祭日を除く） |
| 販売店様印 |

※ 製品名、シリアル番号、ご購入日をご記入ください。